

背幅 3.3mm



グッドホールディングスグループ

CSR報告書

2016

グッドホールディングス株式会社

お問い合わせ先

CSR推進室

〒662-0918 兵庫県西宮市六湛寺町14-5 太陽生命西宮ビル3階

TEL: 0798-47-7704

E-mail: csr@goodhd.co.jp



表4

うら表紙

表1

おもて表紙

グッドホールディングスグループ概要

グッドホールディングスグループは、廃棄物処理のさまざまな社会課題の解決に積極的に取り組んでまいります

| | | |
|--|---|--|
| <p>産業廃棄物処理 / 飲料系商品リサイクル / 排水処理施設等の清掃・管理 (swell 事業)</p> <p>株式会社 リヴァックス</p> <p>所在地: 兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番16号 代表者: 代表取締役社長 赤澤 正人 資本金: 8,100万円 従業員数: 43名 売上高: 19億1,001万円(2016年3月期) U R L: http://www.revaocs.com/ 事業内容: 産業廃棄物 特別処理 産業廃棄物の収集運搬 / 産業廃棄物の中間処理 (破碎・乾燥) / 飲料系商品のリサイクル / 排水処理施設等の清掃・管理</p> | <p>おかたづけサービス / 海外リユース</p> <p>株式会社 リリーフ</p> <p>所在地: 兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号 代表者: 代表取締役社長 赤澤 健一 資本金: 1,000万円 従業員数: 31名 U R L: https://relief-company.jp/ 事業内容: おかたづけサービス(商品整理、住空間整理) / 海外リユース</p> | |
| <p>持株及び資産管理会社</p> <p>グッドホールディングス株式会社</p> | | |
| <p>家庭ごみ・事業ごみの収集</p> <p>株式会社 大協</p> <p>所在地: 兵庫県伊丹市北河原5丁目3番31号 代表者: 代表取締役社長 森下 和尚 資本金: 800万円 従業員数: 30名 売上高: 6億6,734万円(2016年3月期) U R L: http://www.dai-kyo.co.jp/ 事業内容: 一般廃棄物の収集運搬(伊丹市) 産業廃棄物の収集運搬</p> | <p>家庭ごみ・事業ごみの収集</p> <p>株式会社 大栄</p> <p>所在地: 兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番26号 代表者: 代表取締役社長 寺崎 雅明 資本金: 1,000万円 従業員数: 64名 売上高: 12億3,862万円(2016年3月期) U R L: http://dai-ri.co.jp/ 事業内容: 一般廃棄物の収集運搬(西宮市) 産業廃棄物の収集運搬</p> | <p>グリストラックス清掃</p> <p>株式会社 ダイキョウクリーン</p> <p>所在地: 兵庫県西宮市鳴尾浜2丁目1番16号 代表者: 代表取締役社長 森下 和尚 資本金: 1,500万円 従業員数: 21名 U R L: http://dai-kyo-clean.co.jp/ 事業内容: グリストラップ清掃</p> |

編集方針

2015年4月にホールディングス体制へと移行した翌年の2016年4月には、株式会社リヴァックス、株式会社リリーフ、株式会社ダイキョウクリーン、株式会社大協、株式会社大栄の5社での体制となり、社名もグッドホールディングスへと変わりました。

今年度は、インターンシップ生によるCSR報告書作成を試み、「親しみやすいCSR報告書をつくる」をテーマに、新しい視点やアイデアで、ホールディングス各社を捉えています。

6社でのホールディングス体制での報告書の第一歩となる今回は、各社の取り組みをまとめてステークホルダーの皆様にもわかりやすくお伝えすると共に、グループとしての重要課題の設定につながることを目指しました。なお、本報告書では、ISO26000「社会的責任に関する手引き」の中核主題である7項目にそれぞれグッドホールディングスグループに関連のある項目に整理し、「経営(①組織統治、⑤公正な事業履行)」「環境(④環境)」「人権・労働慣行(②人権、③労働慣行)」「コミュニケーション(⑥消費者課題、⑦コミュニティへの参画及びコミュニティの発展)」の4項目で編集しています。

グッドホールディングスグループのあゆみ

- 1960(昭35) (有)大栄衛生(現 大栄)創業 家庭ごみ事業ごみ収集事業スタート
- 1974(昭49) 大栄サービス(株)(現 リヴァックス)設立 産業廃棄物処理事業スタート
- 1976(昭51) (有)大協工業所(現 大協)設立 家庭ごみ事業ごみ収集事業スタート
- 1984(昭59) 処理センターを兵庫県西宮市鳴尾浜に移転
- 1993(平5) 処理センターの設備拡大
- 1998(平10) 建設系廃棄物処理事業からの撤退
- 1999(平11) 同業他社との協働体制構築
- 2006(平18) 破砕処理施設リニューアル 計量器付き収集車両の導入
- 2007(平19) 乾燥処理施設完成 バイオマス燃料化事業スタート
- 2008(平20) リバース マネジメントセンター完成 飲料系商品のリサイクル事業スタート
- 2010(平22) グリストラップ清掃事業スタート
- 2011(平23) おかたづけサービス事業スタート
- 2013(平25) 海外リユース事業スタート
- 2014(平26) swell事業(排水処理施設等の清掃・管理)スタート バイオマスボイラー完成、稼働
- 2015(平27) 持株会社体制へ移行
- 2016(平28) おかたづけサービス事業・リユース事業を分社化し、(株)リリーフを設立 グリストラップ清掃事業を分社化し、(株)ダイキョウクリーンを設立 グループ名称をグッドホールディングスグループに変更



目次

| | |
|----------------------|----|
| グッドホールディングスグループ概要 | 02 |
| トップメッセージ | 03 |
| 事業会社概要 | 07 |
| 2015年度トピックス | 15 |
| インターンシップ紹介 | 16 |
| 特集・Child's Dream 訪問記 | 17 |
| 特集・バイオマスボイラーの稼働 | 19 |
| 経営 | 21 |
| 一経営計画 | 21 |
| 一財務情報 | 22 |
| 一組織統治 | 23 |
| 一法令遵守 | 24 |
| 一情報開示・説明責任 | 25 |
| グッとくるク・ル・マ-使命感- | 26 |
| 環境 | 27 |
| 一活動の目標と実績 | 27 |
| 一環境負荷低減の取り組み | 28 |
| 一マテリアルバランス | 30 |
| 一産業廃棄物処理フロー | 31 |
| グッとくるク・ル・マ-チームワーク- | 32 |
| 人権・労働慣行 | 33 |
| 一活動の目標と実績 | 33 |
| 一労働安全衛生の取り組み | 33 |
| 一人権に関する取り組み | 35 |
| 一安心して働ける環境づくり | 37 |
| コミュニケーション | 39 |
| 一活動の目標と実績 | 39 |
| 一社会貢献活動 | 39 |
| 一お客様とのコミュニケーション | 42 |
| 一消費者課題への取り組み | 43 |
| 一苦情・事故 | 45 |
| 資料編 環境パフォーマンスデータ | 48 |
| 資料編 環境測定結果 | 49 |
| 資料編 過去の苦情・事故 | 50 |
| 資料編 ISO 26000 対訳表 | 54 |

対象組織: グッドホールディングス株式会社、株式会社リヴァックス、株式会社リリーフ、株式会社大栄、株式会社大協、株式会社ダイキョウクリーン (本報告書は各社のホームページでも公開しており、英語版についてはホームページのみの掲載としています)

対象期間: 2015年度(2015年4月~2016年3月)※活動内容の一部、2016年度を含む。

発行月: 2016年10月(次回:2017年10月予定)

対象分野: 事業活動に関する環境的側面、社会的側面、経済的側面

参考ガイドライン: 社会的責任に関する国際規格「ISO26000」/GRIガイドライン第4版 / 環境省「環境報告ガイドライン」

トックスメッセージ

ホールディングスがプラットフォームになり、「五方よし」を実現する

2015年4月からホールディングス体制(持株及び資産管理会社1社・事業会社5社)へ移行しました。

2015年度のグッドホールディングスを評価するとすれば、「優に近い良」でした。点数にすると100点満点で85～90点くらいになるでしょう。

業績は事業会社5社の内、2社の利益の伸び率が少し足りませんでした。他3社が想定していた以上に業績を伸ばした点や大きな事故がなかった点が良かったと感じています。そして、ホールディングス体制となった目的のひとつである「事業会社を増やす」という点では3社から5社へ成長できたことも評価できる点です。

これからグッドホールディングスは「みんなが良いと感じる会社」を目指していきます。グループ名であるグッドホールディングスの「グッド」にもその意味を込めました。みんなが良いと感じる会社に向かうために「五方よし」を実現することが大事であると考えます。「五方よし」によってまずは社内の幸せを達成する。そして、社会の幸せへと向かわせていくことが企業としても、社員としても、私自身としても最大の目標であると思っています。



グッドホールディングス株式会社
代表取締役社長

赤澤 健一

ホールディングス体制での社長像

2015年4月からホールディングス体制へと移行しました。

昨年までは3つの事業会社の社長として社員を統率してきましたが、今年は5つの事業会社を取りまとめるホールディングスの社長としてグループを率いる立場となりました。個々の力を最大限に生かし、全体の調和につながるよう働きかけることがホールディングス体制での社長の役割の一つだと考えています。

事業会社の社長は、事業分野にて最大のパフォーマンスができるよう、ファシリテートすることが求められます。

ホールディングスの社長は、バランスの調整役だと捉えています。オーケストラでたとえると、指揮者です。社全体では、社員が各楽器、企業方針が楽譜となり、個々のプロフェッショナルがそれぞれ適所に配置され、演奏を始めることとなります。演奏中に全体のバランスをみて、調子を整える役割が指揮者です。業務上では、日々変わる社会やお客様の状況をしっかり見ながら、各事業の得意分野を生かしたり、抑えたりすることでバランスをとります。

グッドホールディングスの方向性を示す指揮者として、経営理念かつミッションとして掲げている「五方よし(売り手よし、買い手よし、世間よし、手代よし、孫子よし)」を目指し、ビジョンとして掲げている「五方よしの事業会社を2026年までに20社創り、100億円企業を目指す」を達成できるよう精進致します。



経営理念・ミッション「五方よし」



行動指針

1. 責任とプライドを持って仕事に取り組む

お客様から報酬をもらっている自覚を持ち、常にお客様に満足いただける結果(成果)を残せるよう高いプライドを持ちながら仕事に対して真摯に取り組む

2. 自主性と協調性のバランスをとる

「今、自分が何をすべきかを自ら考えて実践する」という自主性と、「みんなのために考え、協力して物事に取り組む」という協調性のバランスをとる

3. 前向きにチャレンジする

現状に満足せず、前向きに新しいことにチャレンジし続け、「仕事を真剣に取り組むからこそ楽しい(面白い)」という姿勢で取り組む

4. どんな状況にも適応する(適者生存≠弱肉強食)

変化に敏感であり、過去の成功や失敗、慣習に囚われず、様々な困難な状況でも適応する努力を続ける

5. 適正な利益を確保する

われわれが責任を負う人びとの期待に応えるため、且つ事業基盤の確立と将来の繁栄のために適正な利益の確保が不可欠であることを認識する

コーポレートメッセージ

捉える、応える、超えていく

毎日グッドを創る。
少しずつ、創っていく。

その仕事は何であろうと、
どこであろうと。はじめでも、おわりでも。

それは、人を、地域を、社会を、
ちょっとだけ前に、
わずかにだけ先に、進ませるものであると信じてたい。

捉えよう。そこにある問題を、わたしたちには見えない目で。
応えよう。わたしたちにはしかできない方法で。
超えていこう。今あるわたしたちの姿を。

トックスメッセージ

グローバルな視点でのビジネス

今後、経済成長率の伸びが期待される ASEAN 地域にすでに海外リユース事業（海外販路の拡張、次の成長に向けたモデルの検討・実施）で進出しており、カンボジア・タイ・フィリピン・マレーシアの海外市場にビジネス展開をしています。

ここ 2、3 年の間は、既存事業で収益基盤を支え、さらなる成長を推進することに目標を置いています。今後リユース事業を足掛かりとして、本業として行っている廃棄物処理やリサイクル事業を海外進出していくことを目指していきます。

これから新しいビジネス・事業を作る上でも、「社会貢献をすること」が重要だと感じており、「社会問題の事業化」「事業の社会化」をグループとしてのテーマとして掲げています。

「社会問題の事業化」とは、社会問題の解決を事業として担うことにあり、「事業の社会化」とは、事業やビジネスそのものが社会に受け入れられ、ビジネスと社会が同じ方向にベクトルが向くことにあると考えています。

また、ビジネスをする上で「良い社会を作れば、良い市民ができる。良い市民がいれば、良い消費者が生まれる。そこで良い消費者とビジネスができる」と考えています。ビジネスをする際に、ターゲットを広く置いてしまいがちですが、それではビジネスは上手くいかないことが多いです。私たち中小企業は特定のニーズを持つ規模の小さいマーケットで絞る必要があります。自分たちのターゲットにあるお客様から選ばれるように自分たちの仕事に全力を尽くすべきだと考えます。

グローバル視点で環境ビジネスを捉えた時、今の日本はガラパゴス化しつつあります。環境は国の制度の中に組み込まれた 1 つの問題であるため、他国からは介入しにくい産業であることは間違いありません。そのため、コーポレートメッセージの「捉える、応える、超えていく」にあるように、私たちの視点で、日本の環境問題や新しいビジネスに気づき、我々にしかできない方法で、現状をより良く変えていきたいと考えています。

社員の人材育成に対する想い

人材育成への取り組みとして特に力を入れている 2 点を紹介します。

1 つ目は「社員の新たな成長を意識した人材育成」です。社員を 1 つの部署に配置することに固執せず、新たな成長を促すことです。彼らには、社会人としてのプロ意識を持ち、新たなステージへ飛躍してもらいたいという気持ちでおり、その成長を後押しすることが社長の使命です。また、働き手の成長が会社の成長にもつながり、相乗効果が生まれるといったメリットもあると考えています。単に新しい部署へと積極的に異動を促すだけではなく、社員の考え方や性格、人柄を考慮することで、個性を活かした人事配置を行う工夫も取り入れています。

2 つ目は「年間 100 ユニットの研修制度」です。様々な立場の社員が個々の課題に応じた研修を受講しています。

研修は、役職や課題に応じて用意し、活力ある職場づくりの源になっている面もあります。

できるだけ社会情勢に沿った研修や時代を先取りした研修を用意することで、鮮度や即応性を高くし、業務に活用できる実益があるように意識しています。

その成果は、2014 年度から 2015 年度にかけて、売上利益が上昇したことに表れているとみています。研修を受けた社員の人たちがしっかりと受け止めているおかげだと感じています。

こうして生まれた「人材の多様性」と「社員の真摯さ」が私たちの強みとなっています。

「五方よし」の中でも「手代よし（働く人の幸せ・成長を応援する）」を特に大切な理念として位置付けています。それは、働く人たちが幸せな会社でなければならぬと考えているからです。安心して働くことができる社内環境であれば、「幸せ」をもっと確かなものにしたというモチベーションが生まれます。結果的にその思いが「社会に対して貢献する」方向へ繋がります。

人生と仕事を同じレベルで楽しむ

私は社会で働く上で、「人生と仕事を同じレベルで楽しむ・取り組む」ことが重要なのではないかと考えています。いつでも楽しいことばかりでなく、困難が目の前に立ちかはる時もあるでしょう。しかし、困難から逃れられないからこそ「どう行動すべきか」を考えるのです。その経験を積み重ねていくうちに、「仕事と人生を楽しむことは一体である」という考え方になりました。

楽しく仕事をしている人であれば、お客様から見ても好印象です。そうすることで幸せをお客様に届けることができます。

また、仕事を楽しくするためには「勇気を持って、自分が本当に幸せになれる道を全力で進む」ことが必要なのではないでしょうか。自分自身の生き方に信念を持って、何事にも挑むことが大切です。

さらに、幸せになる目標にたどり着くには、賛同する協力者がいることも忘れてはなりません。私はグループの将来の目標を掲げていますが、協力してくれている社員の存在があることを常に心に留めています。

次世代へのメッセージ



「考える力を養ってほしい」。これを次世代へのメッセージとして伝えたいです。これは、私たちの身近にある物事を深く捉えてほしいということです。

世の中には、同じ事象でも視点の違いによって、正反対の見方ができる場面があります。その場合は、片方だけの視点で考えると、課題を見誤ります。両方を見ることで、はじめて課題の本質を知ることができ、真の解決策が生まれます。

このように物事を深く考えることを次世代に人々には取り組んでもらいたいと思っています。



安心・信頼される廃棄物処理サービスを通じて、お客様の利益に貢献します

産業廃棄物の収集運搬・中間処理

主に製造業で排出される産業廃棄物の「収集運搬」から「積替保管」「中間処理(乾燥・破砕)」「処理先への運搬」まで、一連の業務を行っています。

乾燥処理 有機性廃棄物からバイオマス燃料を製造

保管容積 90.9m³/日(24時間)
許可品目 汚泥、炭油、炭酸、炭アルカリ、動植物性残渣
設置年月日 2007年(平成19年)5月1日
※バイオマス燃料の熱量は石炭の約3分の2(4,500kcal/kg)



破砕処理 固形廃棄物の破砕・選別・減容化

保管容積 50t/日(8時間) ※燃焼処理能力94t/日
許可品目 廃プラスチック類、金属くず、ガスクズ、コンクリートくず及び陶磁器くず 他(全8種類)
設置年月日 2006年(平成18年)2月10日



積替保管 一定の量が集まるまで廃棄物を一時的に保管

リバース・マネジメントセンター
保管容積 735m³
許可品目 汚泥、炭油、炭アルカリ、廃プラスチック類、動植物性残渣(全7種類)
設置年月日 2006年(平成20年)3月11日
破砕棟内の積替保管施設
保管容積 221m³
許可品目 汚泥、廃プラスチック類、動植物性残渣、金属くず 他(全14種類)
設置年月日 2006年(平成18年)2月10日



飲料系商品のリサイクル

賞味期限切れや不良品という理由で廃棄される飲料系廃棄物品はリバース・マネジメントセンターに搬入され、簡便作業をおこなった後、破砕施設で容器と中身の液体を固液分離します。液体は乾燥施設でバイオマス資源に、容器は提携先にてそれぞれ再資源化しています。

排水処理施設等の清掃・管理



工場排水処理設備の各種槽をほしめ、配管やタンクを清掃し、汚れや詰まりによる機能低下、悪臭を解消します。国内最大級の超強力吸引車を導入し、低コスト・短工期でのサービスを提供しています。

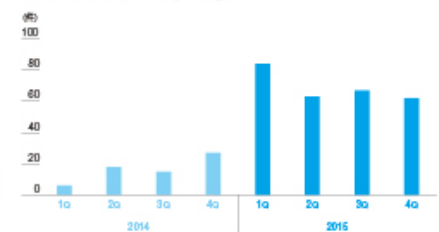
- 【主なサービス内容】
- 排水処理施設の清掃 ●配管内の洗浄・調査
 - 各種タンクの清掃 ●工場内排水・排水会所の清掃



原料受入量・バイオマス燃料製造量



swell作業件数(四半期推移)



循環型社会の一翼を担うリヴァックスの役割

リヴァックスでは、食品製造・加工工場などから排出された汚泥や動植物性残渣などを乾燥処理し、バイオマス資源を製造しています。その約半分は、肥料の原料として農家で利用されており、農家でつくられた農作物はやがて食品工場で使われたり、消費者の食卓に届けられます。また、提携先を通じて処理している食品残渣なども家畜用飼料となり、ここからも循環を生み出しています。

一方、残りの半分はセメント会社で燃料として使われます。石油や石炭の代わりにポイラーで燃やされ、燃焼後の灰もセメント原料に利用されています。



TOP MESSAGE



2015年度は、目標の売上や利益を達成でき、良い1年だったと言えます。また、2、3年前から手掛けた事業の芽が始めたことを実感できた年でもあります。中でも、swell事業は頼りに伸びており、今後もより一層、清掃作業の短時間化、低コスト化を強みとして拡大していきたいと考えています。

リヴァックスは、産業廃棄物の収集運搬・中間処理を主な事業として取り組んでいます。事業会社の中では「資本集約型産業」と言えます。機械や設備に積極的な投資を行うとともに、社員が安心・安全な職場で働けるよう労働環境を整えています。

お客様や地域の方から直接見えにくい事業が多いので、CSR報告書を通して、より多くの方に知っていただくことで、信頼関係を築いていきたいと考えています。

株式会社リヴァックス 代表取締役社長 赤澤 正人

事業を通じて3Rを推進し、 循環型社会におけるライフスタイルを提案します

おかたづけサービス

大掛かりなおかたづけを必要とされるお客様に、最適なプランを提案し、住空間づくりのパートナーとしてお手伝いします。

遺品整理サービス

部屋の片付けと、そこに残された遺品を整理します。ハウスクリーニングや消臭・消毒作業など、原状回復業務も請け負います。

住空間整理サービス

在宅介護の受入れや施設の入居に伴う部屋の整理、また、何らかの事情で部屋もしくは家全体が「ごみ屋敷」化した状態を片付け、不用品を撤去します。

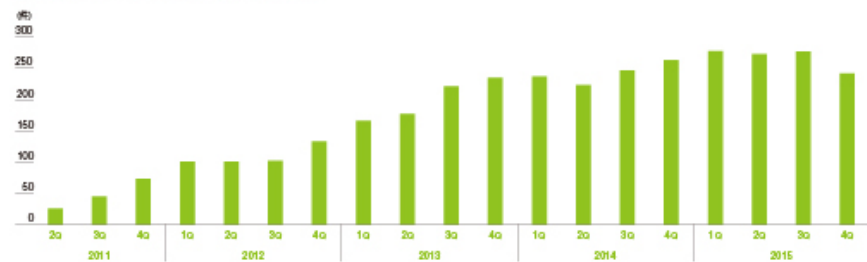


海外リユース

おかたづけサービスで回収した不用品を、地球のどこかで必要としている人の元へ届け、再び生かす取り組みです。タイやカンボジア、フィリピン、マレーシアなど東南アジアを中心に輸出し、現地のリサイクルショップやオークションなどで販売。これにより、リリーフのサービスをご利用いただくお客様のコスト軽減を実現しています。



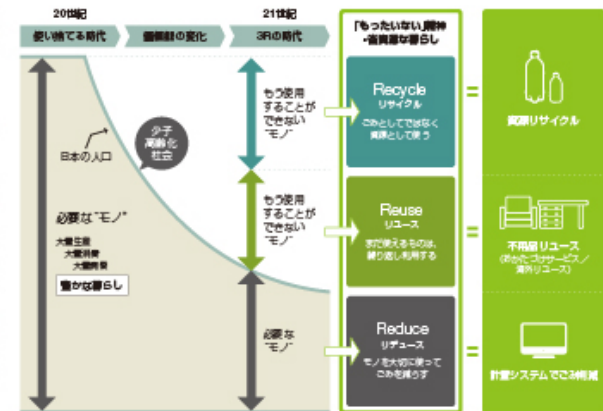
■ おかたづけサービス作業件数(四半期推移)



事業を通じた3R(リユース・リデュース・リサイクル)の取り組み

1980年以降の高度経済成長期から、日本は大量生産・大量消費型社会で生活は豊かになりましたが、同時に大量の廃棄物や地球温暖化、大気・水質汚染などの環境問題が噴出しました。

2000年以降、地球にやさしい循環型社会へと移行する中で、リリーフはグループ会社と共に事業を通じて3Rを実践しています。持続可能な社会の構築に向け、資源やエネルギーを大切にするライフスタイルを市民の方やお客様に提案・浸透させていくことも使命の一つと考えています。



TOP MESSAGE



2015年度は、順調に伸びた1年でした。遺品整理・おかたづけ事業や海外リユース事業が軌道に乗っており、サービスの拡大・拡充を展開している最中であると言えます。
お客様の困りごとに対して、新しい視点や感覚で課題解決に向かっていくことを信条に、社員一同が躍動しています。
日常の事業活動ばかりでなく、事業者として社会的責任を果たしていく必要があり、弊社はお客様への情報の提供やお知らせ、社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。
「無いほうが良い仕事」の提供を通じて、お客様と社会に貢献し、日本で一番、安心・信頼される「無くてはならない事業者」を目指しています。
2016年度は分社化したこともあり、事業会社としての自立が求められます。国内・国外問わず広い視野で物事を捉え、それがお客様ひとり一人の困りごとの解決につながるよう、全力で取り組みます。

株式会社リリーフ 代表取締役社長 赤澤 健一

市民生活と地域事業を支える社会基盤として、なくてはならない企業を目指します

グリストラップ清掃

飲食店や病院、学校施設などの厨房に設置されているグリストラップ(油水分離槽)※や排水管を含む水回りの衛生維持管理に関するさまざまなサービスを提供しています。

回収した汚泥はリヴァックスや提携先の処理施設でリサイクル。専用の高圧洗浄車やポータブル機を保有し、排水管を詰まらせないための定期清掃、万が一のトラブル対応まで、あらゆるケースに対応される体制を整えています。

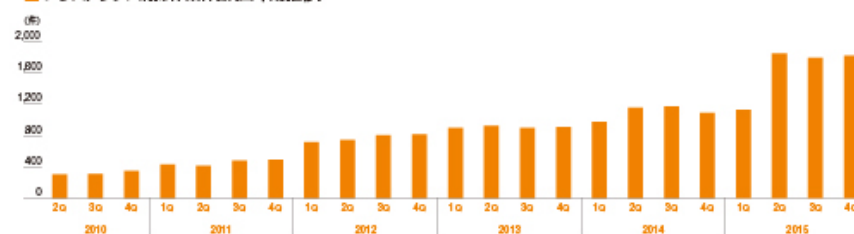
※グリストラップ(油水分離槽)：下水道に直接、油やごみが流れないようにする装置。

主なサービス内容

・グリストラップ清掃 ・排水管清掃 ・雑排水槽清掃 ・ダクト清掃 ・防虫、防鼠



■グリストラップ清掃作業件数(四半期推移)



街や飲食店などのクリーンな環境維持に貢献

飲食店の厨房などに設置されているグリストラップは、汚れを定期的に取り除くことで衛生環境を改善し、水質の汚染を防止します。また、排出される汚泥の量も少なくすることができます。

排水管の高圧洗浄や雑排水槽の清掃などサービスメニューを拡大すると共に、徹底した衛生管理とコンプライアンスを重視した適正処理に重点を置き、お客様に安心いただける体制を構築しています。



TOP MESSAGE



ダイキョウクリーンは、2015年度よりグループ会社の大幅から分社化された新しい事業会社です。主に飲食店や病院、学校に設置されているグリストラップの清掃を行っています。

2015年度は、関西でのグリストラップ清掃事業が開始から6年目を迎え、十分な成果をおげることができました。さらに新規市場開拓を目的に関東へ事業所を設置することができました。関東での営業は想定よりも良いスタートを切ることができ、初年度から3,000～4,000万円の売上を上げることができました。競争が多い市場ですが、2016年度はさらなる売上増加を目指し、営業に力を入れて取り組んでいきたいと考えています。

また今後とも、より多くのお客様のご要望・ご期待にお応えするために、社員一同「真摯さ」「向上心」を念頭に、新たな挑戦をしていきたいと考えております。

株式会社ダイキョウクリーン 代表取締役社長 森下 和尚

お客様の満足度が地域貢献と社員の達成感に

法人向けサービス 産業廃棄物収集運搬

産業廃棄物を収集し、中間処理施設や最終処分場に運搬いたします。各種収集車両、コンテナを多く保有し、法令遵守で、安全且つ適切なサービスをおこなっています。
また、電子マニフェストを導入しており、産業廃棄物収集運搬の効率化を図っています。
大協でも同様のサービスを提供しています。



法人向けサービス 一般廃棄物収集運搬

伊丹市内の事業所(飲食店、スーパーマーケット、オフィスなど)約1,000件のお客様から排出される事業系一般廃棄物を収集し、市の処理施設に搬入しています。
また、適正処理困難物(市の処理施設で対応できないもの)の分別の徹底を提案し、適正な処理に努めています。
大協でも同様のサービスを提供しています。



行政向けサービス 家庭ごみ収集運搬

大協では伊丹市から委託を受けて約34,000世帯の一般家庭ごみの収集運搬を行っています。行政の仕様書に従い、燃やすごみ、燃やさないごみをはじめ、ビン、ペットボトル、廃プラスチック容器等の分別収集を行い、循環型社会の貢献に努めています。
大協では西宮市より委託を受けています。



TOP MESSAGE



株式会社大協 代表取締役社長 森下 和尚

1982年の創業より伊丹市を中心に、家庭ごみや飲食店などの事業ごみの収集をおこなっております。その間、地域の皆様が快適に過ごせる生活環境づくり、ごみの適正処理、減量及び有効活用のお手伝いを心がけてまいりました。

2015年度は、各事業が好調に推移したため、売上は前年度比で増加する結果となり、良い1年であったと考えております。

2010年に大協で生まれたグリストラップ事業も順調に成長し、親元を兼立チダイキョウクリーンとして分社独立いたしました。これらも大協の社風である「真摯さ」「クリーンさ」「向上心」が大きな力となっていると感じています。

今後とも信頼いただける企業であり続け、お客様や地域社会とともに成長していきたいと考えております。

事業活動を通じて、地域社会の生活環境の保全並びに循環型社会の構築に貢献します

法人向けサービス 廃棄物計量システム

車両にこみを積み込むだけで重量を計測できる「スケールバックカー」を導入し、各取引先のこみ重量を一元管理しています。
このシステムの導入により、お客様に対してこみ処理量の透明性を確保できると共に、こみの発生抑制・減量化の提案につなげることができました。数字による「こみの見える化」は、お客様のこみ減量に対する意識を高め、全体として予想以上の減量に至り成果を上げています。
また、こみの排出量に応じて収集費用を算出する「従量課金制」を取り入れ、「こみ減量一経費削減」を実現しました。
大協でも同様のサービスを提供しています。



個人向けサービス 家庭系粗大ごみ回収

テーブルやキャビネットなど大きい家具を運び出すには、「重すぎる」「玄関が狭い」「階段がある」など様々な問題があります。専門スタッフによる丁寧でスピーディな運び出しにより、それらの問題を解決します。
大協でも同様のサービスを提供しています。



法人向けサービス 事業系粗大ごみ収集

オフィス、工場から出てくる不用品、粗大ごみに関してはその種類も量も多いことがほとんどです。
様々な種類の収集運搬車両をご用意し、お客様に合った回収作業をご提案、家電リサイクル法をはじめ、各基準に基づいて、適正処理をおこないます。
大協でも同様のサービスを提供しています。

TOP MESSAGE



株式会社大栄 代表取締役社長 寺崎 春明

西宮市で50年以上にわたり、一般廃棄物の収集運搬を担い、市内の家庭ごみ・事業ごみの収集運搬及び西宮市内外の産業廃棄物等の収集運搬を行っています。

2015年度は、社員の働きやすい環境を追求したこと、まじめでバイタリティ溢れる社風が業績の向上の要因となったと感じております。グループを通して真面目な社員が多いですが、特に大栄では現場での対応力を支えるアイデアを持った社員が活躍しております。日々の業務課題については社員と一緒に、意見を出し合い、協力して解決に向かっていくことが多く、人と人の連携が非常に重要であると考えております。

また今後とも、日々の仕事を通して、地域社会・お客様に貢献できる可能性を模索しながら、常に自己革新を続け、皆様に安心・信頼いただける企業であることを目指してまいります。

第19回環境コミュニケーション大賞



平成28年2月24日/リヴックスグループCSR報告書2015」が第19回環境コミュニケーション大賞(主催:環境省、一般社団法人地球・人間環境フォーラム)の環境報告書部門において、優良賞を受賞いたしました。

<報告書への評価>

グループ企業の構成の中で、廃棄物処理事業の将来性を見越えた3Rの事業展開を行っており、新しい視点での発展が期待されることが、トップのコミットメント及び業務の紹介、有識者ダイアログからうかがうことができる内容となっている。

また、土壌改良材製造工程でのバイオマスポイラー導入によるCO₂削減の取組は、環境のみならず経済・社会的な面でも優れている。ネガティブ情報も多く開示しており、廃棄物処理事業が地域に受け入れられるようコミュニケーションもよく図られていることも高く評価できる。

セーリングチーム世界大会への出場権を獲得



平成27年11月23日/セーリングチームが全日本スライプ選手権大会において6位入賞を果たし、平成28年6月にブラジルにて開催した世界大会への出場権を獲得しました。

非営利団体「Child's Dream」支援開始



平成27年12月16日/東南アジアを中心に子供たちの自立を支援する「Child's Dream」に、売上金の一部を寄付いたしました。

過去の受賞・顕彰歴

| | |
|--------|---|
| 2014年度 | 「環境 人づくり企業大賞2014」奨励賞 「第18回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門 優良賞 |
| 2013年度 | 「第17回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門 奨励賞 |
| 2012年度 | 「西高専工芸創生70周年記念:環境経営特別賞」 「CSR2プロジェクト」コンプライアンス部門 環境産業廃棄物部長賞 「第16回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門 奨励賞 |
| 2011年度 | 「西宮市優良事業所顕彰-NISHINOMIYA APPLIED PRIZE-」 「第15回環境報告書・サステナビリティ報告書賞」サステナビリティ報告書賞部門 優良賞 |
| 2010年度 | 「CO ₂ マイナスプロジェクト」生活部門 特別賞 |
| 2009年度 | 「第8回エコプロダクツ大賞」エコサービス部門 エコプロダクツ大賞審査委員長特別賞(奨励賞) 「第13回環境報告書・サステナビリティ報告書賞」サステナビリティ報告書賞部門 優良賞 「第13回環境報告書・サステナビリティ報告書賞」環境報告書賞部門 優良賞 |
| 2008年度 | 「第7回日本環境経営大賞」環境経営部門 奨励賞 |
| 2007年度 | 「第11回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門 奨励賞 |
| 2006年度 | 「第10回環境コミュニケーション大賞」環境報告書部門 奨励賞 「第10回環境報告書・サステナビリティ報告書賞」環境報告書賞部門 中小企業賞 「第4回「パートナーシップ大賞」グランプリ」(大賞) |

平成27年度青少年の体験活動推進企業表彰



平成28年3月9日/平成27年度青少年の体験活動推進企業表彰(主催:文部科学省)において、「子ども農業塾」の活動が評価され、審査委員会奨励賞(中小企業部門)を受賞いたしました。

平成27年度 子ども農業塾 開催



- 第1回:5月23日(土) 開校式:落花生蒔き・土づくりの仕込み・野菜の苗付け・田植え・野菜の収穫
- 第2回:8月8日(土) 田んぼの草抜きゲーム・夏野菜の収穫・川の生き物ウォッチング
- 第3回:9月19日(土) 稲刈り・畑の切り直し・野菜の収穫・環境パネル展の作品作り
- 第4回:10月24日(土) さまいも収穫・野外調理
- 第5回:12月5日(土) 大根の収穫・土づくり・環境パネル展の作品作り・しめ縄づくり・修了式

独立行政法人国際協力機構(JICA)関西の研修受け入れ



独立行政法人国際協力機構(JICA)関西では、各国の廃棄物に関する職員研修をされています。平成27年度は、6月・11月と3月に研修の受け入れに協力しました。

第8次中期経営計画発表会



平成28年3月25日/グッドホールディングスグループの「第8次中期経営計画発表会」を開催しました。

活動紹介



インターンシップ生は、「楽しみやすいCSR報告書」をテーマに掲げ、CSR報告書をより多くの方々に読んでいただきたい思いで製作していました。コンセプトを自分たちで考え、何度も取材に来てもらい、毎週集まり話し合い、記事を作成しました。

1stプログラム 手作りミニ冊子作成

子どもたちにグッドホールディングスグループの仕事を知ってもらうことをテーマに、働くお父さんお母さんが自分の子どもたちに会社のことを話するためのきっかけとなる絵本を作成しました。

~物語のおらずし~

小学生のアキつくくんには、グッドホールディングスグループで働くお父さんがいます。今度の休みに一緒に遊ぶ約束をしていましたが、急な仕事のために行くことができなくなりました。アキつくくんは怒って家を飛び出し、走っているとバナナの皮にすべって転んでしまいました。近くのゴミ箱に捨てると、妖精が現れたのです。妖精はゴミを捨ててくれたことのお礼に、3つのお願いを叶えてくれますと言います。半信半疑で1つ目のお願いをします。「お菓子をいっぱい食べたい!」すると部屋にたくさんのお菓子が。願い事が叶ったことにびっくり。そして2つ目のお願いを考えていると、お父さんと遊べなくなったことを思い出し、「お父さんの仕事をなくしてほしい!」と言います。すると、街中にゴミが落ちてしまいました。あわてて3つ目のお願いをします。「お父さんの仕事をもちに返して!」すると街からゴミがなくなりました。アキつくくんはお父さんが街のために役立つ仕事をしていることを誇りに思ったのでした。



インターンシップコーディネーター

このインターンシップ活動は、NPO法人コミュニティ事業支援ネットと協働で行いました。インターンシップ生が行うプロジェクトの内容に沿って、週に1回の定例会や取材に関するアテンダー等をコーディネーターしてもらいました。

インターンを通じて、印象に残ったこと

- 南 滋之介** (甲南大学 マネジメント創造学部 マネジメント創造学科)
このCSR報告書を通じて、ステークホルダーの指標が環境について考えていただく機会になればと思います。
- 本田 志織** (関西学院大学 社会学部 社会学科)
タイへのスタディツアーへ同行させて頂くなど、自分の生活では触れない事を学ばせて頂きました。
- 袁 歌** (神戸女学院大学 日本語・日本文学専攻 総合文化学科)
メンバーたちと一緒に作業したり、CSR報告書について議論したりと、インターンシップは充実していました。日本で働く思いがより強くなりました。
- 村上 慶子** (神戸女学院大学 文学部 総合文化学科)
このインターンを通じて働くということの意味や大切さを皆さんから学ぶことができました。これから社会人として働いていく中でよい経験となりました。
- 石塚 康隆** (近畿大学 総合社会学部 総合社会学科 環境系専攻)
活動を通じて「社会で働くということ」を少しでも知るきっかけになったと思います。
- 柏本 亮亮** (関西学院大学 経済学部 経済学科)
約半年間のインターンシップを通じて、「企業と地域社会との繋がり」や、「環境への取り組み」などに触れることができ、貴重な学びの時間となりました。
- 水野 綾香** (甲南女子大学 文学部 日本語日本文学専攻)
グッドホールディングスグループで働く人々の思いがCSR報告書を手にする方々に伝わるようなものになってほしいと思います。

Child's Dream訪問記

この度、Child's Dream (チャイルド・ドリーム) が行っている活動の一部を、関西学院大学からのインターンシップ生1名とともに訪問いたしました。
難民キャンプの中でも一番大きなMae la campやChild's Dreamが支援を行っている学校、就職支援施設などを主に訪問し、教育を受ける子供たちを見学いたしました。



私たちとChild's Dreamの出会いとは2014年のことでした。私たちが事業を行っている国で、とても素晴らしい活動をされている方々がいることを知り、彼らの活動に対する実直で真摯な姿に感銘を受け、ささやかながら支援をすることにいたしました。2016年4月には、創設者であるおふたりを日本へお招きし、社員やインターン生に向けた講話を行いました。今回、その時のお礼も兼ねてタイを訪問することになりました。

Child's Dreamと活動について

1990年代後半に計画経済から市場経済の道歩み始めたカンボジア、ベトナム、ラオスなどメコン川流域の国々、「東南アジア諸国連合(ASEAN)」のこれらの国々は、大きく変化する社会・経済環境の中で、確実に発展を遂げています。しかし、一方で地方との格差は急激に拡大しており、経済的不平等や内戦、政情不安などにより複雑な問題が絡み合い、いまだ深刻な人道危機が発生しています。人権侵害により十分な教育機会が与えられていない子供たちのために2003年より活動を始めた団体が「Child's Dream」です。
子供たちの医療・教育環境を改善すべくコミュニティとの協働を通して目的を達成することを目標に日々活動に取り組んでいます。

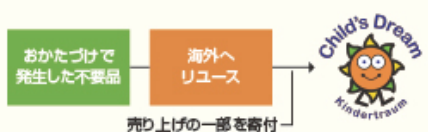


Reliefが支援する理由

リリーフでは、「五方よし」を経営理念として売り手と買い手とともに満足し、社員・従業員もできる会社を目指しております。また社員、従業員が自らの成長と豊かさを実感すること、さらに次世代へ向けて持続可能な社会の構築を目標にさまざまな社会課題の解決に積極的に取り組んでいます。社員・従業員においては国内のみならず、世界の人々の豊かな社会の実現にも積極的に貢献していきたいという思いがあります。
おかげさまで回収した不用品(家具、日用品等)を海外で再び生かす取り組みを2013年より海外リユース事業として立ち上げました。これまで東南アジアを中心に活動してきましたが、都市部から離れた地域を訪れるにつれて、様々な社会問題や経済格差を目の当たりにしました。
そのような問題の将来的な解決のため教育機会の提供で子供たち・青少年の自立を支援する「Child's Dream」に共感し、リリーフの売上の一部を寄付することとしました。

寄付の流れ

おかげさまで回収した不用品は海外でリユースされ、海外で必要とされている方の元でもう一度再利用されます。リユース品の購入よりも生活資本を整えることを第一と考える発展途上の地域には、適切な住環境や医療、教育のために支援活動をおこなうChild's Dreamへ販売した際の売上の一部を寄付することで利益還元を行っております。



本田 志織
特に印象に残ったのは、難民キャンプです。私の日常とは全く別の世界に存在するものでした。これはタイだけではなく世界中で起きている紛争や貧困の問題の一端です。これらの問題は、何となく目にしたりする程度で、その情報が発信されないし、知る事がない一瞬の間に事になってしまいます。
Child's Dreamが活動することによって、より多くの人たちが問題意識を持つものなのだと感じました。
訪問先で出会った人は学べる事自体にとっても感謝していました。学べる機会がある事が当然である事に感謝したいと思います。



Youth connect foundation

職業訓練所の施設です。私たちが訪問した時はちょうど販売員の練習をしていました。使用言語はすべて英語で即戦力を身に付けています。他にもIT関連や料理人になるためのプログラムなどがあるのですが、料理人のプログラムは1週間の予算の中で自分たちが献立を決め材料を調達するといった本格的なものでした。このような実践的なプログラムのおかげで就職後のミスマッチが少なく離職も少ないそうです。



Minmahaw Higher Education Programme

大学進学を目指す生徒が学習する予備校の施設です。生徒の皆さんと座談会を行いました。将来の夢についてお話を伺ったのですが、教師や政治家などそれぞれ夢を持っており大学進学のために一生懸命勉強しているそうです。私が大学生と言うことで、日本の大学や私の専攻についてなど座談会が終わった後も話を聞かされてきました。



Mae la camp(PTMJC)

ここでは約3万人が生活しています。この敷地は安全を考慮、囲まれていて、自由に出入りすることはできず、外の人が中に入るには許可が必要だそうです。そのためここで生まれ育った多くの若者は外の世界を知らずに育っています。中に入ると木と葉っぱで出来た家が並びいくつかの家庭では野生の豚や鶏を捕まえて家畜としていました。Child's Dreamなどの団体によって作られた学校がありそこで知識を身に付け、就労IDを取得しキャンプの外で働く生徒もいるそうです。

Child's Dreamの活動実績

Child's Dreamの活動には「保健」「基礎教育」「高等教育」があります。中でも教育は、貧困撲滅、持続的経済成長への大きな原動力です。理解力や正しい判断力を鍛え、文化的平和や深い社会の繋がりの基盤を構築することができます。また、所得獲得および質の高い雇用機会をうみだすことができます。しかし、多くの子供たちが健康問題を理由に十分な教育を受けることができない現状にあります。そのため、Child's Dreamでは保健プログラムや救命治療を提供し、より多くの子供が教育を受けられることができるよう目指しています。

| 保健 Health | 基礎教育 Basic Education | 高等教育 Higher Education |
|---------------------------|---|---|
| 幼児死亡率を減らし、より多くの子供に教育を授ける。 | 全ての人々に教育機会を与えて識字率を向上させ、搾取的状況への代替手段を創出します。 | 適正な所得確保と雇用機会を生み出すため、十分な知識や技術力、コミュニケーション能力の構築を目指します。 |

バイオマスボイラーの轍

2014年12月に稼働を開始したバイオマスボイラー。導入後は、都市ガス使用量やCO₂総排出量が削減され、発電電力の場内利用による電気使用量の増加抑制の効果が生まれている。この環境に優しい施設ができるまでには苦難の道のりがあったことを忘れてはいけない。当時、導入に至るまでの道のりを当事者による対談から明らかにする。



設備改革への想いから生まれた

一 バイオマスボイラーを設置したきっかけはなんですか

児島：バイオマスボイラー導入以前、都市ガスを使うボイラーを動かしていたのですが、燃料価格の高騰により効率よく収益を上げることが課題となっていました。そこで、化石燃料を使わないバイオマスボイラーの導入を図ろうと考えました。

一 バイオマスボイラーの他にも導入検討された案はあったのですか

赤澤：焼却炉を取り入れる案が先に挙がっていましたが、コストがかかり、その他様々な問題があり…。そんな中で思いついたのがバイオマスボイラーでした。

一 導入に際して、社内では不安の声はありましたか

児島：施設導入により費用がかかってくるため経理部門から「大丈夫ですか?」という声はありましたね。また、燃料である木質チップを安定して調達できるのかといった声も聞かれました。そのような声には、資金に関しては国からの補助金制度、燃料の調達に関しては取引先との契約書面によって納得をおこないました。赤澤：社内だけでなく建設会社との値段交渉など社外との交渉でも苦労しましたね。

トラブルにモマケズ…

一 導入後の変化はありましたか

児島：運転・管理方法が変わったため、スタッフに新しい技能が求められるようになりました。そのため、今まで以上にスキル向上を図りました。

一 新しいことをはじめる際に苦労したことはありましたか

児島：スタッフたちが自発的に考えて動くようにすることですね。彼らには自分で判断して動いてほしいという思いがあるのです。

赤澤：2007年に稼働した乾燥プラントも、2~3年は機械のトラブルやオペレーションの構築に苦労しました。機械の故障などの問題が発生すると本当に大変です。売上や利益に響いてくる可能性もありますから、

ただ、トラブルを解決するために試行錯誤することで、知識が蓄えられる等、組織力の強化につながるのでも前向きに考えるようにしています。現在はバイオマスボイラーを安定稼働するためにどうすれば良いか、みんなが考えて動いてくれています。

今回お話を伺ったのは



株式会社リヴァックス
代表取締役社長
赤澤 正人さん



株式会社リヴァックス
総務センター 課長
児島 毅さん

環境に優しく、人にも優しく

一 導入したことによるメリットは

児島：燃料を安定的に供給できるようになったことですね。エネルギー使用量やCO₂排出量を大幅に落とせたことも大きかったと思います。これは国をはじめとして社会からも評価されました。バイオマスボイラーを苦労して設置したことが目に見える形で評価されたのでうれしかったですね。

赤澤：あと、以前のボイラーは「燃料を使って燃料をつくっているのはおかしいのでは?」という声がお客様から聞かれることがありましたが、その矛盾もなくなりましたね。

バイオマスボイラー愛

一 バイオマスボイラーに対する熱い想いが伝わってきますね

児島：愛情は強いですね。立ち上げ時から携わっているので、僕は離れられないという、離れたくなくて……。それは、僕自身が今の現場で日々成長を感じられているからだと思います。元々は新卒で入社して営業担当だったのですが、理系であったこともあって今の現場に配属になったんです。それから、日々課題にぶつかるとは毎日ですが、できなかった課題ができるようになることを肌で感じることで、充実した日々を送っています。

一 導入したことによるメリットは

児島：営業時代ももちろん楽しかったです。しかし、今の現場の方がよりやりがいを感じられていると思います。これは仕事に対する責任感が大きくなったからではないかな…。バイオマスボイラーという会社が命運をかけて導入した素晴らしい機械・設備をしっかりと動かしていかないといけないという思いですね…。あと、作業員を指導していく立場でもあるので、「人も育てていかないといけない」という思いも責任感となっているのだと思います。

赤澤：元々リヴァックスは収集運搬が中心の会社で設備はあまり力を入れていませんでした。でもバイオマスボイラーをはじめとした、様々な設備を導入していったことで「自分たちもスキルアップしていかないといけない」という情熱も強くなっていったのではないかなと思います。

一 バイオマスボイラーへの想いは他の誰よりも強いと聞かれていますか

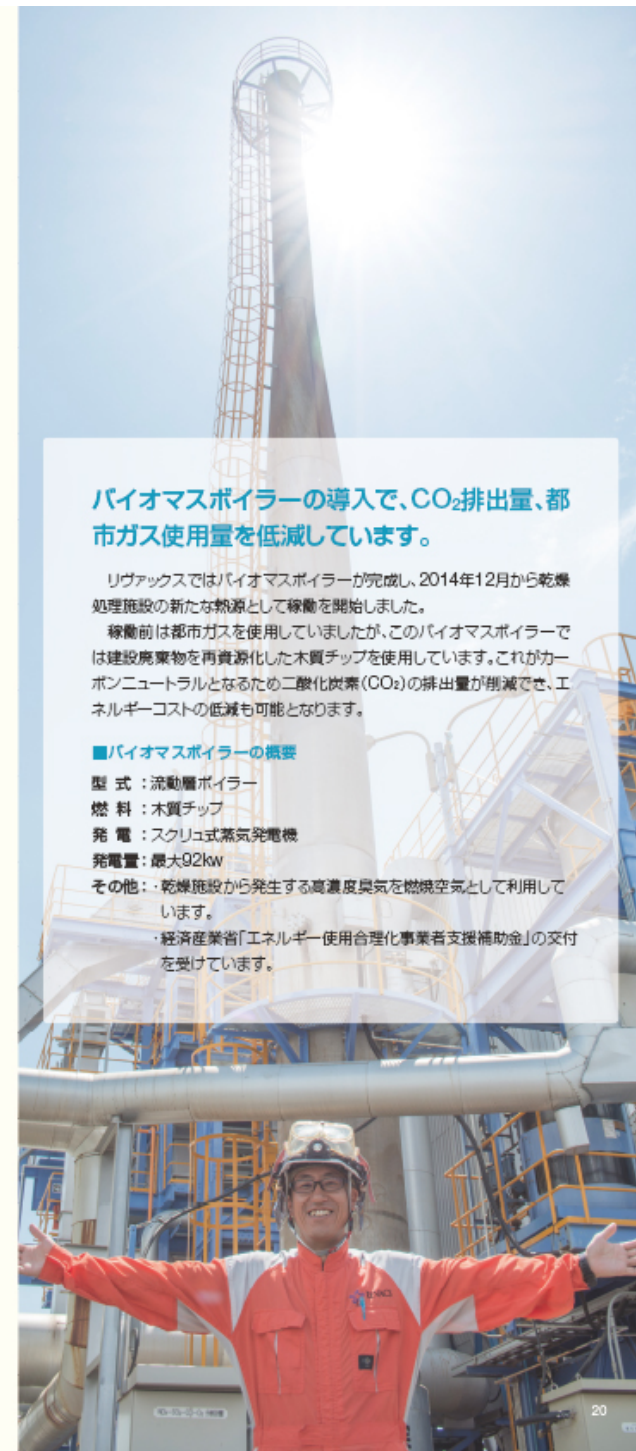
児島：そうですね。「僕はこのバイオマスボイラーのことだったら誰よりも知っているよ!」みたいな自負がありますね。技術力だけでなく「このボイラーができるまでには様々な人々の協力があってくださった」ということも知っているのだから、いわば、僕の相棒ですね。



インタビューを行った学生の感想

石塚 康隆

今回取材を通じて印象深かったのは「バイオマスボイラーに対する熱い思い」でした。バイオマスボイラー導入前、導入後の様々な困難にも負けず乗りこえていく姿勢に熱い思いを感じました。このような苦労があったからこそ、社員の方々がバイオマスボイラーに対して愛着や誇りを持って作業されているのだと思いました。技術力だけに目がいきがちなバイオマスボイラーを「人」を視点として見ることで、新たな発見が生まれた取材となったように思います。



バイオマスボイラーの導入で、CO₂排出量、都市ガス使用量を低減しています。

リヴァックスではバイオマスボイラーが完成し、2014年12月から乾燥処理施設の新たな熱源として稼働を開始しました。

稼働前は都市ガスを使用していましたが、このバイオマスボイラーでは建設廃棄物を再資源化した木質チップを使用しています。これがカーボンニュートラルとなるため二酸化炭素(CO₂)の排出量が削減でき、エネルギーコストの低減も可能となります。

■バイオマスボイラーの概要

型式：流動層ボイラー

燃料：木質チップ

発電：スクリュ式蒸気発電機

発電量：最大92kw

その他：乾燥施設から発生する高濃度臭気を燃焼空気として利用しています。

経済産業省「エネルギー使用合理化事業者支援補助金」の交付を受けています。

さまざまな変化に迅速に対応し、 経済と社会の両面からグループ全体の発展を追求します

経営計画

中期経営計画の策定

グループ横断的な経営戦略を策定し、各社・各部門の施策に反映しています

グッドホールディングスグループでは、経営理念及びミッション、ビジョンの実現を目指し、3ヶ年毎に中期経営計画を策定しています。弊社を取り巻く外部環境や内部環境を

考慮し、中長期的な視点で戦略を考え、各社・各部門の施策に反映しています。

第7次中期経営計画の最終年度である2015年度の主な活動は次のとおりです。第8次中期経営計画では、既存の廃棄物処理事業を収益基盤としつつ、2011年以降の新規事業を成長エンジンと位置付け、グループ全体でさらなる成長を目指していきます。

| 第7次中期経営計画 (2013～2015年度)基本戦略 | 2015年度の活動実績 | 第8次中期経営計画 (2016～2018年度)基本戦略 |
|---|---|---|
| ホールディングス全体 <ul style="list-style-type: none"> ● ホールディングス体制への移行 ● 安心・信頼を維持する活動の推進 ● 最適な人的資源管理 | <ul style="list-style-type: none"> ● 第8次中期経営計画の策定 ● コーピングを取り入れた職種別・階層別の人材育成 ● グループでの「CSR報告書」発行 | <ul style="list-style-type: none"> ● 人的資源管理：働きやすい労働環境作り、人材育成及びスキル向上、新卒・中途採用による人材確保 ● 物的資源管理：事業拠点・用地の確保、設備計画 ● 資金調達：資金調達の最適化 ● ブランドマネジメント：CSR推進、広域・IRの充実、CIS刷新の検討・実施 |
| リヴアックス <ul style="list-style-type: none"> ● 高騰するエネルギーコストへの対応 ● 新規事業の開拓 ● 生産性の向上（営業効率・運営効率・処理効率） | <ul style="list-style-type: none"> ● ナイオマスボイラーの安定稼働 ● 新規事業（swell）の拡大 | <ul style="list-style-type: none"> ● 強みが生きるサービスと特定市場へのリソース集中 ● 次期プラントの検討・準備 |
| 大栄・リリーフ <ul style="list-style-type: none"> ● 新規事業の採算性確保 ● リユース事業の拡大 ● 収支運営戦略の生産性向上 | <ul style="list-style-type: none"> ● 新規事業（おかたづけサービス）のフランチャイズ展開 ● 新規事業（リユース事業）の仕入先および販路の拡充 | 【大栄】 <ul style="list-style-type: none"> ● 収益安定化のための打ち手検討・実施 【リリーフ】 <ul style="list-style-type: none"> ● おかたづけ事業：コスト効率の向上、関東エリアでの営業強化による作業件数の増加、フランチャイズによる全国展開 ● リユース事業：海外販路の拡張、次の成長に向けたモデルの検討・実施 |
| 大協・ダイキョークリーン <ul style="list-style-type: none"> ● 新規事業の採算性確保 ● 収支運営戦略の生産性向上 | <ul style="list-style-type: none"> ● 新規事業（グリストラップ清掃）の関東エリア進出 | 【大協】 <ul style="list-style-type: none"> ● 収益安定化のための打ち手検討・実施 【ダイキョークリーン】 <ul style="list-style-type: none"> ● 営業強化による作業件数の獲得 ● 外注作業の内製化による差別化の強化 |

財務情報

2015年度の業績総括

グループ全体で増収・増益となりました

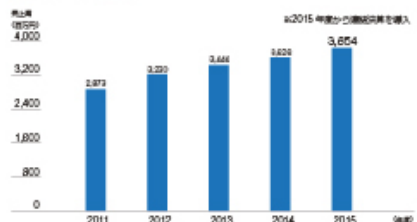
2015年度のグループ全体の売上高は38億54百万円で、前年度に比べて2億27百万円(6.3%)の増収、営業利益は2億74百万円で前年度に比べて94百万円(64.3%)の増益となりました。既存の廃棄物処理事業が堅調に推移すると共に、すべての新規事業^(※)が前年度を上回る業績を上げました。

リヴアックスにおいては清掃事業（swell）が大きく伸び、前年度比78百万円(4.3%)増収の19億10百万円、57

百万円(91.3%)の増益でした。大栄/リリーフにおいては、おかたづけ事業のフランチャイズ展開やリユース事業の販路確立により、前年度比50百万円(4.3%)増収の12億39百万円、92百万円(179.5%)の増益でした。大協/ダイキョークリーンにおいては、関東地域に進出したグリストラップ清掃が好調で、前年度比81百万円(13.4%)増収の6億87百万円、前年度比8百万円(14.0%)の増益でした。

※2011年度以降にスタートした事業
リヴアックス：排水処理施設等の清掃・管理
リリーフ：食品整理、海外へのリユース品の販売
ダイキョークリーン：飲食店等のグリストラップ清掃

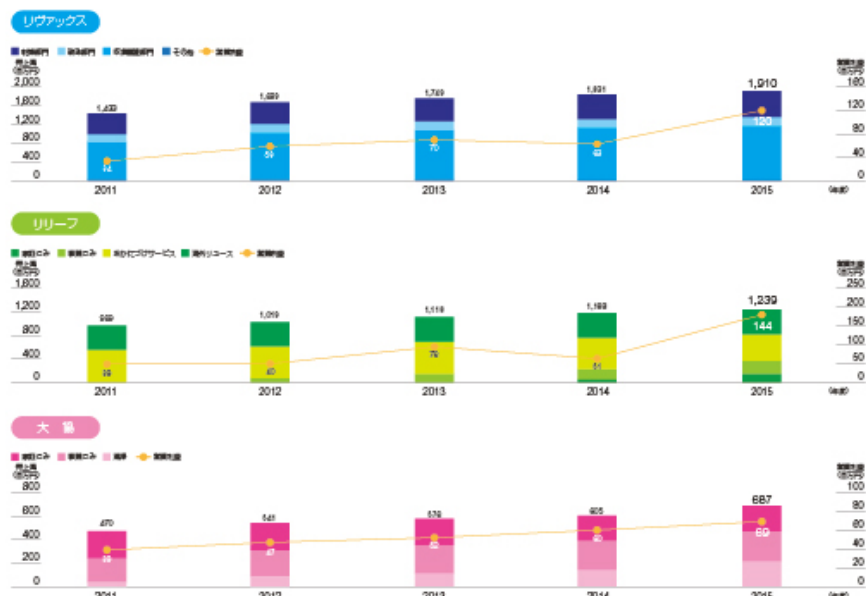
■グループ売上高



■グループ営業利益



■売上高/営業利益



組織統治

経営管理体制

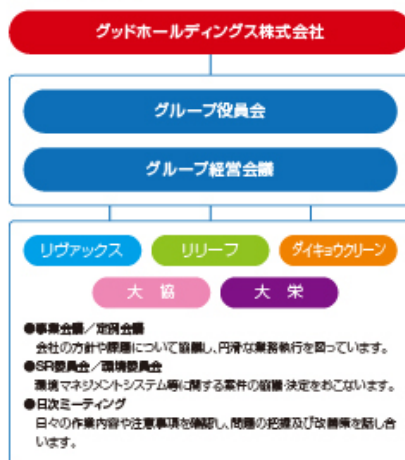
「透明性の確保」「円滑な業務遂行」を重視しています

すべてのステークホルダーから安心・信頼される企業グループであり続けるため、健全で透明性の高い事業及び経営に努めています。

月に一度開催するグループ経営会議は、係長職以上の役員者で構成され、各社の収支実績や主要施策などを報告し、それらを受けて事業計画の状況確認及び対応策を協議します。また、営業活動の進捗状況や成功事例、効果的な販売促進などに関する情報を共有しています。

お互いの良い点や問題点を認識し参考にするることによって、活動の見直しや改善提案を図る体制を構築しています。

■経営管理体制図



■マネジメントシステムの運用

環境、労働安全衛生の各種マネジメントシステムを活用しています

グループの事業が環境に直結しているため、環境マネジメントシステムの認証を取得しています。リヴァックスと大協は「ISO14001」、大栄は「エコアクション21」のマネジメントシステム規格に基づいて構築したシステムを運用しています。

これらシステムの推進は、各社に設置した事務局が管轄しています。それぞれ年毎プログラムを策定(Plan)、運用し(Do)、毎月の委員会や内部監査、外部監査でその運用が適切におこなわれているかを確認(Check)します。年度末には1年間の活動を総括し、次年度に向けて見直し(Action)をおこないます。このPDCAサイクルを繰り返して、マネジメントシステムの継続的な改善を図っています。

処理施設を保有するリヴァックスは、災害・事故は最大の環境破壊であるという考えのもと、2008年に「OHSAS18001(労働安全衛生マネジメントシステム)」とISO14001の統合認証を取得しました。

■内部監査・外部監査

内部監査に社外専門家の意見も取り入れています

マネジメントシステムを運用する中で、その実効性とパフォーマンスを点検するため、内部監査及び外部監査を毎年実施しています。

社内で実施する内部監査については、客観的視点を取り入れるため、環境審査の専門家である恒徹氏に内部監査員としてメンバーに加わっていただいています。



■トップパトロール

リヴァックス リリーフ 大栄 ダイキョウクリーン

社長自らがマネジメントシステムの運用状況を巡視しています

リヴァックスでは、マネジメントシステムの運用事項として、社長パトロールを毎月1回おこなっています。手順が正しく運用されているか、整理整頓ができていないかをチェックし、記録として残しています。パトロールは毎月抜き打ちでおこなわれ、2015年度はアドバイスも含めて93件の指摘がありました。

また、リヴァックスと大栄、リリーフ、ダイキョウクリーンでは、グッドホールディングス代表及び役員によるパトロールもおこなっています。

■法令順守

■法令順守状況

2015年度も重大な違反はありませんでした

事業会社ごとに順守すべき法令を特定し、その順守に努めています。また、法令で定められた時期に行政へ必要な報告をしているか、法令に則った運用が適正におこなわれているかなどを、適宜確認しています。

2015年度も前年度に引き続き重大な違反はありませんでした。

■事業に関する主な法令(抜粋)

| 法令 | 名称 |
|---------------------|--|
| 廃棄物の処理及び清掃に関する法律 | 廃棄物の処理基準、マニフェスト伝票の交付と管理、委託契約書の締結と管理、収集運搬車両への表示と警備の備付け等 |
| 大気汚染防止法 | NOx、ばいじん等の排出基準 |
| 下水道法 | 排水の下水道放流基準等 |
| 騒音規制法、振動規制法、悪臭防止法 | 騒音、振動、悪臭基準 |
| 道路交通法 | 走行速度、停車・駐車禁止、酒酔いの禁止 |
| 道路運送車両法 | 自動車の点検及び整備義務 |
| エネルギーの使用の合理化等に関する法律 | エネルギーの使用状況報告、管理員の選任等 |
| 地球温暖化対策の推進に関する法律 | 温室効果ガスの測定と報告 |
| 労働安全衛生法 | 安全確保の措置、安全衛生推進者の選任と通知、清掃の実施等 |
| 飲酒・たばこ使用禁止規則 | 濃度測定、保護具・避難用具の整備と点検等 |
| 消防法 | 消防計画の策定、訓練の実施、消防設備の点検等 |
| 西宮市との環境保全協定 | 大気、悪臭等の測定方法や回数等 |

■個人情報の徹底管理

リリーフ

プライバシーマークを取得し、情報セキュリティを強化しています

おかけつけサービス等においてお客様の個人情報を取り扱うリリーフでは、プライバシーマークを取得し、情報管理を徹底しています。個人情報の取り扱い等について定められた規程及び方針を制定し、個人情報利用目的や情報漏えいのリスクとあわせて、年1回、社員教育を実施しています。



■順守評価の実施

「順守評価記録」を活用し、法改正にも迅速に対応しています

グッドホールディングスグループに適用される法令は法的要求事項として一覧にまとめ、順守評価記録で管理しています。この順守評価記録に従って、法的要求事項が守られているかを評価し、万一、違反が発見されたときは是正処置をおこなう手順を確立しています。

事業に関わる法改正については、当該記録項目を改訂すると共に、必要な対応とあわせて関連部署に伝達し、社内に展開しています。

順守評価記録

| 項目 | 法令 | 評価 | 備考 |
|------|---------|----|----|
| 1.1 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.2 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.3 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.4 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.5 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.6 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.7 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.8 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.9 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.10 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.11 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.12 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.13 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.14 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.15 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.16 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.17 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.18 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.19 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.20 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.21 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.22 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.23 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.24 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.25 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.26 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.27 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.28 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.29 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.30 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.31 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.32 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.33 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.34 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.35 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.36 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.37 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.38 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.39 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.40 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.41 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.42 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.43 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.44 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.45 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.46 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.47 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.48 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.49 | 労働安全衛生法 | ○ | |
| 1.50 | 労働安全衛生法 | ○ | |

情報開示・説明責任

CSR報告書／環境報告書の発行

コミュニケーションツールとして、各社で活用しています

廃棄物処理事業そのものや弊社グループの取り組みを広く知っていただきたいとの思いで、リヴァックスは2002年度から、大栄は大協は2008年度から報告書を発行しました。それから毎年社員の手で作成し、各社とも版を重ねることに充実したものとなりました。

この度、ホールディングス体制への移行を機に、報告書についても、グループで統括することとなりました。その第1回目となる「リヴァックスグループCSR報告書2016」が「第19回環境コミュニケーション大賞」の優良賞を受賞しました。今後もステークホルダーの皆様と私たちを結び重要なコミュニケーションツールの一つとして、引き続きその発展に努めていきます。



産廃情報ネットでの情報開示

リヴァックス 大栄 大協

優良産廃処理業者認定制度に沿って情報を公開しています

2011年度に産廃処理業者優良性評価制度が大幅に改定され、新たに「優良産廃処理業者認定制度」が創設されました。各社で兵庫県や大阪府をはじめ、複数の自治体の適合認定を受けています。

公益財団法人産業廃棄物処理事業振興財団が運営する「産廃情報ネット」は、ここに情報を掲載すると新制度で求められる事業の透明性にかかわる基準に適合するように構築されており、許可内容や財務諸表などの情報を同サイトで公開しています。

※優良産廃処理業者認定制度：5つの基準 ①実績と遵法性、②事業の透明性、③環境配慮の取組、④電子マニフェスト、⑤財務体質の健全性。すべてに適合する優良な産廃処理業者を都道府県・政令市が認定する制度。



産廃情報ネット
<http://www.sanpainet.or.jp/>

業績報告会

全従業員に業績をオープンにしています

売上高や利益高などを報告する業績報告会を、事業会社ごとに毎月1回おこなっています。この業績報告会は、役職者だけでなく、一般社員やアルバイトなどすべての従業員を対象にしており、全社や各部門の収益状況、その分析などが報告されます。

会社の業績をオープンにし、従業員が経営状況を正しく理解することにより、事業運営への参画意識が高まり、経営課題や業務の改善につながっています。



経営計画発表会

全従業員で会社の方針や目標を共有しています

2016年3月に経営計画発表会を開催、約170名が集まりました。2016年度は3ヶ年毎に策定している第8次中期経営計画の1年目ということで、各社長が基本戦略や2018年度に向けた目標、従業員へのメッセージを述べました。

従業員がトップの考えや全体の目標を共有するだけでなく、他の事業会社の従業員と交流する場にもなりました。



グッとくる
ク・ル・マ

—使命感—

グッドホールディングスグループでは、さまざまな車両が活躍している。その車両を動かすのは、もちろん人だ。日々、一生懸命に仕事に取り組み姿の内なる心には、熱い気持ちがあった。ここではswell事業とGT/バスターズで運転する方々の想いを語ってもらった。



加久 勝徳(尚ダイキョウクリーン 業務課)
橋 英久(尚ダイキョウクリーン 業務課)

お客様に喜んでもらうために。

私たちの仕事は、絶対に他社には負けることはないという自信を持っています。

グリストラップの清掃は、調理場のある施設が対象になって主に飲食店や大型ショッピングモールで行います。私たちが清掃を行えば、グリストラップを新品のようにリセットすることを目指しており、他社ではありえない徹底した清掃を行っています。さらに、お客様に対して日頃のメンテナンス方法や配管の状況などをお伝えするので、コミュニケーションの機会がたくさんあります。その中で、「ありがとう」と言ってもらえることが一番の幸せです。



GT/バスターズとは

グリストラップ(油水分離槽)や排水管を含む水回りの衛生維持管理に関するさまざまなサービスを提供しています。回収した汚泥はリヴァックスや提携先の処理施設でリサイクル、専用の高圧洗浄車やポータブル機を保有し、排水管をばらせないための定期清掃、万が一のトラブル対応まで、あらゆるケースに応えられる体制を整えています。

<主なサービス内容>

・グリストラップ清掃・排水管清掃・排水口清掃・ダクト清掃・防虫・防鼠



日本最大級の風量140m³/minを誇る超強力吸引車「swell」は株式会社リヴァックスが保有する車両で日本に3台しかいない貴重な存在です。工場環境インフラ清掃に特化したサービスで、工場排水処理設備の各種槽や配管やタンク等の清掃を、他社にない高機能な車両により低コスト短工期で作業することができます。



小島 浩二(尚リヴァックス 業務課 課長)
船迫 健一(尚リヴァックス 業務課)

safty(セーフティ)&well(ウェル)=swell

超強力吸引車は、従来の吸引車の3.5倍の吸引力を持っており、高低差100mまでの作業が可能になりました。一方で、凄まじい吸引力で粉塵物を回収するため、事故などの危険性も潜んでおり安全管理を徹底することが非常に重要になっています。ホースを操り作業を行う者と吸引車の側で作業を監視する者に分かれ、危険があれば直ちに吸引を停止し、安全を確保できる体制をとっています。また、作業を実施するまでには、綿密な準備が必要となります。

営業マンによるお客様との打ち合わせや作業員の指示書など、多くのプロフェッショナルが集結し、超強力吸引車での作業が実現しているのです。

さらに、回収した有機性汚泥は乾燥処理をすることでバイオマス資源として再生することができます。そのため、私たちはswellの作業では、廃棄物を循環型エネルギー源として捉えており、持続可能な社会への一端を担っていることを誇りに思っています。

循環型社会の一翼を担う企業として 環境に配慮した事業活動に努めています

活動の目標と実績

| 活動テーマ | Plan 2015年度目標 | Do 2015年度実績 | Check 結果 | Action 2016年度目標 |
|-----------------------------|--|--|-------------------|---|
| リヴァックス | | | | |
| 処理・運送におけるエネルギー使用削減(原単位あたり) | 電気:88.5 _{Wh/kg} 以下 | → 94.9 _{Wh/kg} | × | 電気:94.03 _{Wh/kg} 以下 |
| | 燃費:3.89 _{km/l} 以上 | → 3.90 _{km/l} | ○ | 燃費:3.90 _{km/l} 以上 |
| オフィスにおけるエネルギー使用削減 | 電気:18,713 _{kWh/m²} 以下 ^{※1} | → 17,983 _{kWh} | ○ | 電気:18,168 _{kWh/m²} 以下 |
| | 燃費:17.97 _{km/l} 以上 | → 19.36 _{km/l} | ○ | 燃費:19.36 _{km/l} 以上 |
| 安心・信頼される廃棄物処理サービスの追求 | お客様、周辺地域からの苦情件数ゼロ | → 苦情件数0件 | ○ | お客様、周辺地域からの苦情件数ゼロ |
| | 悪臭・排水処理施設の自主基準値順守 | → 自主基準値の順守 | ○ | 悪臭・排水処理施設の自主基準値順守 |
| | お客様への情報発信 | → 12回発行 | ○ | メールマガジンの発行:12回 |
| | - メールマガジンの発行:12回 - セミナーの開催:2回 | → 2回実施 | ○ | セミナーの開催:3回 |
| 大 塚 | | | | |
| エネルギー使用削減 | 電気(1時間あたり):8.83 _{kWh/台} 以下 | → 5.99 _{kWh} | ○ | 電気(年間):29,833 _{kWh/台} 以下 |
| | ガソリン使用量の削減 ^{※2} | → 8,477 _l | - | ガソリン使用量の削減 ^{※2} |
| 効率的な資源の使用 | 都市ガス使用量の削減 ^{※2} | → 398.3 _{m³} | - | 都市ガス使用量の削減 ^{※2} |
| | 燃費の維持 | → 燃費の維持 ^{※1} | - | 燃費の維持 ^{※1} |
| | 第一事業部(廃棄物処理): 3.13 _{km/l} 以上 | → 3.02 _{km/l} | × | 大型車2.64 _{km/l} 以上 小型車3.35 _{km/l} 以上 コンテナ車4.22 _{km/l} 以上 平ボディ車5.6 _{km/l} 以上 |
| | 第二事業部(プラスチック清掃): | | | |
| | 大型車:4.34 _{km/l} 以上 | → 4.61 _{km/l} | ○ | — ^(※2) |
| | 小型車:5.94 _{km/l} 以上 | → 5.83 _{km/l} | × | — ^(※2) |
| 高圧車:5.13 _{km/l} 以上 | → 4.98 _{km/l} | × | — ^(※2) | |
| 環境負荷の軽減 | 水の使用量削減 ^{※2} | → 1,563 _{m³} | - | 水の使用量削減 ^{※2} |
| | 紙の使用量削減 ^{※2} | → 281.3 _{kg} | - | 紙の使用量削減 ^{※2} |
| | 事務所の廃棄物減量化 ^{※2} | → 520 _{kg} | - | 事務所の廃棄物減量化 ^{※2} |
| 大 塚 | | | | |
| エネルギー使用削減 | 電気:40,750 _{kWh/台} 以下 | → 67,977 _{kWh} | × | 電気(1時間あたり):4.50 _{kWh/台} 以下 |
| 効率的な資源の使用 | 燃費の維持 | → 燃費の維持 | - | 燃費の維持 |
| | - ガソリン:13.6 _{km/l} 以上 | → 13.6 _{km/l} | ○ | ガソリン:13.6 _{km/l} 以上 |
| | - 軽油:2.61 _{km/l} 以上 | → 3.09 _{km/l} | ○ | 軽油:3.09 _{km/l} 以上 |
| | - 天然ガス:4.37 _{km/NetGJ} 以上 | → 5.28 _{km/NetGJ} | ○ | 天然ガス:5.28 _{km/NetGJ} 以上 |
| 環境負荷の軽減 | 水使用量:2,483 _{m³} 以下 | → 2,236 _{m³} | ○ | 水の使用量:2,236 _{m³} 以下 |
| | 事務所の廃棄物排出量: 695.5 _{kg/台} 以下 | → 761 _{kg} | × | 事務所内の廃棄物排出量: 380 _{kg/台} 以下 |
| | CO ₂ 排出量:765,742 _{kg-CO₂} | → 677,411 _{kg-CO₂} | × | CO ₂ 排出量:677,411 _{kg-CO₂} |
| | グリーン購入の推進 | → コピー用紙など対象品目の 実施率:100% | ○ | 継続的な実施 |

※1 2015年2月の事務所稼働に伴い、当施設内の作業用オフィスを稼働させた。
 ※2 電気及び軽油(軽油)の使用については、環境省の公表値の上乗せしたため、当施設の実績と一致していません。
 ※3 ディスクワークスへの業務委託に伴い、1号車庫から移りました。

環境負荷低減の取り組み

産業廃棄物のリサイクル率 **リヴァックス**

90%を超えるリサイクル率を維持しています

リヴァックスにおける2015年度の産業廃棄物取扱量とリサイクル率は右のグラフのとおりです。破砕施設がリニューアルした2006年、乾燥施設を設置した2007年より90%を超えるリサイクル率を保っています。

限りある物質資源の有効活用のため、また、貴重な産業資源である埋立処分地の延命のため、そして、産業廃棄物のリサイクルに取り組みお客様のご要望にお応えするためにも、自社内での選別や提携先との連携をさらに推進してまいります。

※ リサイクル率は、年間取扱量のうちリサイクル処理への仕向量の占める割合を表す。

リヴァックスの産業廃棄物の年間取扱量とリサイクル率



処理センターのエネルギー使用量 **リヴァックス**

できる限り省エネルギー対策に努めています

リヴァックスの処理センター(破砕・乾燥施設)では、電気・工業用水・都市ガスのエネルギーを使用しています。

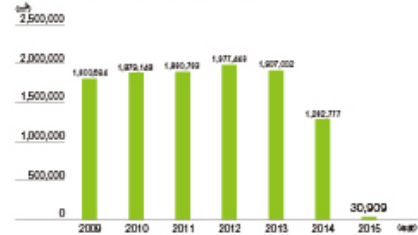
2015年度の電気使用量は3,423,488kWhでした。デマンド監視装置で需要電力を把握し、適切に管理することにより使用電力の抑制に努めています。

その他、2015年度の工業用水使用量は58,589m³、都市ガス使用量は30,909m³でした(P.48参照)。

処理センターの電気使用量



処理センターの都市ガス使用量



悪臭防止対策 **リヴァックス**

各種対策で、規制値を順守しています

リヴァックスでは、廃棄物から発生する悪臭の防止対策を各所で講じています。破砕施設には、活性炭式の脱臭装置を4箇所設置し、汚泥や動植物性残渣の保管ヤードにはシャッターを取り付けて、廃棄物の搬入出時以外は閉めています。乾燥施設から発生する高濃度臭気は、バイオマスボイラーの燃焼室内で燃焼脱臭をおこない、低濃度臭気には臭気を薬剤で中和脱臭させる薬液洗浄装置を設置し、臭気を処理しています。

西宮市との環境保全協定に基づきおこなっている臭気測定の結果は、2015年度もすべて規制値内でした(P.49参照)。



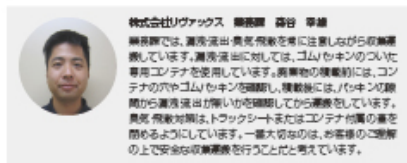
環境負荷低減の取り組み

廃棄物の漏洩・流出防止対策 リヴァックス

水密コンテナを使用するなど、漏洩・流出防止を徹底しています

リヴァックスの破砕棟の床面は処理をする廃棄物が漏洩しないように、すべてのコンクリートの上に鉄板を敷いています。また、天災などにより廃棄物が流出するおそれが生じた場合に備えて、下水排水出口を塞ぐ土嚢を常設しています。

さらに、含水率の高い廃棄物を収集運搬する際には、運搬中などに漏洩しないようゴムパッキンのついた水密コンテナを使用しています。パッキン等の消耗品は定期的に点検し、劣化する前に取り換えています。

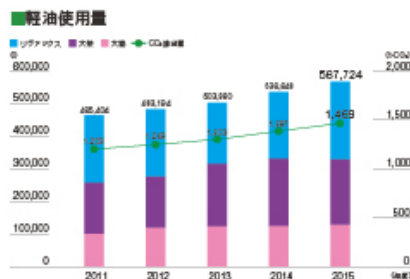


軽油使用量 リヴァックス

エコドライブに努めています

廃棄物の収集運搬で使用する各車両をはじめ、場内で利用するフォークリフト、ショベルなどの燃料に軽油を使用します。燃費効率向上のため、ドライバーの意識を高めエコドライブの徹底や、定期点検を実施しています。

2015年度の軽油使用量は567,724リットルで、前年度より5.8%増加しました。これは、全事業会社とも作業件数が増え、走行距離が増加したためです。

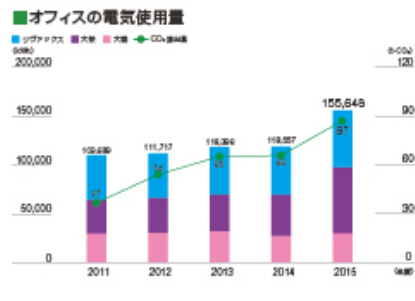


オフィスの電気使用量 リヴァックス

照明点灯時間の短縮、空調の温度管理で省エネ活動を推進しています

2015年度のオフィスでの電気使用量は155,628kWhで、前年度より31%増加しました。オフィスでは、自然光の活用による照明点灯時間の短縮や、空調の温度管理（冷房28度以上、暖房22度以下）などによる省エネルギー活動を実施しています。

約80%増となった大東については、社員の移転に伴いスペースが広がり、部屋数も増えたことにより、電気やエアコンの使用量が大幅に増えたものと考えています。

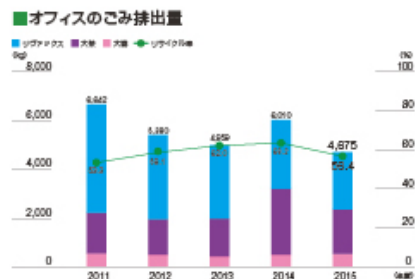


オフィスのごみ排出量 リヴァックス

排出量は前年度から約20%減少しました

オフィスから排出する廃棄物はリサイクルの可否を基準に種類ごとに分別し、リサイクルを推進しています。

2015年度のオフィスからの総排出量は4,675kg、リサイクル率は56.4%でした。排出量は約20%減少しましたが、リサイクル率は前年度を下回りました。



水質汚濁防止対策 リヴァックス

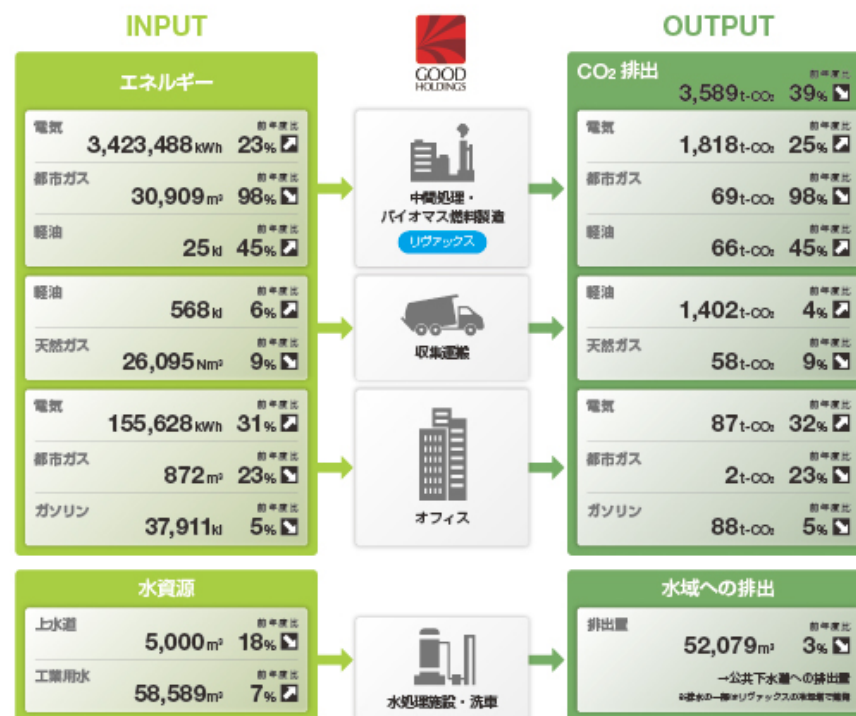
定期的に水質を分析し、適正管理に努めています

リヴァックスでは、廃棄物処理工程において発生する排水は、全量を水処理施設で処理した後に下水道へ放流しています。排水の異常を防ぐために、連続監視式のpH計を設置し、排水処理施設の水質を定期的に分析しています。また、法律より厳しい自主基準値を設定し、月1回の管轄行政による排水水質検査に合わせた自主検査を実施するなど、未然の予防に努めています。

2015年度の検査結果はすべて規制値内でした(P.49 参照)。

マテリアルバランス

2015年度における事業活動に必要な資源・エネルギーなどの投入量 (INPUT) と二酸化炭素 (CO₂) などの環境への排出量 (OUTPUT) は次のとおりです。INPUTとOUTPUTを把握した上で、資源の有効活用及び環境負荷の低減に取り組んでいます。



◎二酸化炭素 (CO₂) の排出係数
 ・ 発電された電気 (調度電力) 0.0005311-CO₂/kWh
 ・ 軽油 (単位換熱量) 37.7GJ/L (排出係数) 0.01671CO₂/GJ
 ・ 都市ガス (単位換熱量) 44.8GJ/千Nm³ (排出係数) 0.0138CO₂/GJ
 ・ 天然ガス (単位換熱量) 43.5GJ/千Nm³ (排出係数) 0.0139CO₂/GJ
 ・ ガソリン (単位換熱量) 34.8GJ/L (排出係数) 0.0162CO₂/GJ

(出典)
 ・ 地球温暖化対策の推進に関する法律
 ・ (平成26年7月12日環境省環境政策発表資料)
 ・ 平成26年度の電力事業報告書の開示に係る開示後排出係数の公表について
 ・ 地球温暖化対策の推進に関する法律施行令 別表第一 (第三号関係)

産業廃棄物処理フロー

リヴァックス

2015年度にリヴァックスが取り扱った産業廃棄物の処理の流れは次のとおりです。廃棄物の品目や性状に合わせて適切に処理しています。

2015年度取扱量
合計 **72,189t**



グッとくる ク・ル・マ ーチームワーク

グッドホールディングスグループでは、さまざまな車両が活躍している。その車両を動かすのは、もちろん人だ。日々、一生懸命に仕事に取り組み姿の内なる心は、熱い気持ちがあった。ここではバックカー車を運転する方々の想いを語ってもらった。

日頃のチームワークについて

株式会社大栄で廃棄物の回収を行う社員の年齢層は幅広く、勤続年数の長い社員も多く在籍しています。そのため、社員間でのコミュニケーションやチームワークが非常に重要になっています。特に家庭ごみの回収は運転手1名、ごみ回収1名の2名でタッグを組んでいます。そのタッグで約半年間エリアのごみ回収を行います。そのため、タッグには何卒の呼吸とも書えるチームワークを働いています。家庭ごみの回収、事業ごみの回収を通して地域の方々のコミュニケーションを取る場面も多く、地域に密着した仕事となります。

また、1日の内、社内で打ち合わせを3回実施しております。バックカー車の故障など、突然のトラブルが発生しても全員で解決策を考えます。さらに、それぞれのバックカー車には無線を搭載しており、作業の遅れているエリアには他エリアのバックカー車が応援に行くこともあります。

仕事のやりがいについて

勝田 伸幸(株式会社大栄 業務課 勤続27年目)

私は主に事業ごみの回収、運搬を行っております。日頃、多くのごみを回収するわけですが、その中にはごみが散乱し、ごみステーションが焼れていることもあります。そんな時こそ、我々が綺麗に回収することをお客様から「いつもありがとう」というお声をいただく、気が引き締まる思いになります。

池本 芳郎(株式会社大栄 業務課 勤続23年目)

廃棄物処理の仕事というのは、公共性の高い仕事であり、地域に密着していると感じることが度々あります。お客様に「おはよう」「ありがとう」と声を掛けられると非常に励みになり、西高をよりキレイにしたいと思っています。

中屋 真二(株式会社大栄 業務課 勤続3年目)

私はまだ勤続年数が短く慣れないこともありますが、この職場は自分のスキルアップに非常に良い環境であると感じています。日々の回収でのお客様とのコミュニケーションや、先輩社員からの激励をいただく中で、自分の成長を感じることができ、生きがいとなっています。これからも精一杯期待に応えていきたいと思っています。

平田 良一(株式会社大栄 業務課 勤続19年目)

私が長年働いている中で意識していることは、「初心を忘れないこと」です。日々の回収に慣れてくると、どこか手を抜きたくなることも増えてきます。しかし、ひとたびバックカー車で街へ出れば、我々の仕事は地域の方に見守られていますので、丁寧さ、真摯さが重要になってきます。そのため、初心を忘れずに日々の仕事に励んでおります。



インターン生のコメント

柏本 晃晃

特集記事「グッとくるク・ル・マ」の編集にあたり、3回の取材を行いました。取材を通して、グッドホールディングスグループの社員からは、「真摯さ」「真面目さ」という言葉が度々登場し、何事かひたむきに日々の仕事に取り組み姿に感動し、引き込まれるような魅力を感じました。

従業員の人材力向上と、安心して働ける環境整備を進めています

活動の目標と実績

| 活動テーマ | Plan 2015年度目標 | Do 2015年度実績 | Check 結果 | Action 2016年度目標 |
|----------------------|-----------------------------------|-----------------------------------|----------|-----------------------------|
| リファックス | | | | |
| パートナーが安心して働ける職場環境づくり | 事故ゼロ - 休業災害0件 - 不休業災害0件 | → 0件 → 2件 | ○ × | 休業災害0件 不休業災害0件 |
| | - 物損事故:11件未満 (2014年度比50%削減) | → 13件 | × | 物損事故:6件未満 (2015年度比50%削減) |
| | 事故防止 - パトロールの実施:月1回 | → 月1回実施 | ○ | パトロールの実施:月1回 |
| | 快適な職場づくり - 社内一斉清掃の実施:2回 | → 2回実施 | ○ | 社内一斉清掃の実施:2回 |
| 大 目 | | | | |
| パートナーが安心して働ける職場環境づくり | 事故件数の削減 - 5件 (2013年度発生件数)未満 | → 休業災害 0件 不休業災害 4件 物損事故 15件 | × | 5件未満 |
| | 安全快適な職場づくり - 3S活動のシステム化 | → 月1回の環境委員会 運営状況の確認 | ○ | 3S活動のシステム化 |

大 目 2015年度実績 休業災害4件、不休業災害4件、物損事故3件 ※ パートナーと我々の従業員が共同で事業のために働くすべての人たちの

労働安全衛生の取り組み

リスクアセスメント/ヒヤリハット

リファックス

毎年すべての作業工程におけるリスクを洗い出し、対策を講じています

リファックスでは、OHSAS18001(労働安全衛生マネジメントシステム)に基づいて、年1回、全社員ですべての工程におけるリスクアセスメントをおこなっています。2015年度は517件の危険源を抽出し、その中からリスクポイントの高い危険源を45件に特定し、リスク管理を実施しました。

リスクへの対策は、危険源となる作業や行為そのものを除去することを優先し、次いで危険源を隔離する(例:安全柵の設置)などハード面の対策、危険の見える化、そして手帳の整備、教育訓練、保護具の着用という順で対策をとっています。

また、事故にはならなかったものの、ヒヤリとしたことやハットしたことを抽出するヒヤリハットも常時おこなっており、2015年度は62件のヒヤリハットを抽出し、リスクアセスメントを実施しました。

ドライブレコーダーの活用

大 目

収集業務の全車両に搭載し、事故防止に努めています

大栄と大協では、収集業務で使用する全車両にドライブレコーダーを搭載し、ドライバーの運転を管理しています。ドライバーが自身の運転特性を把握し、安全運転を意識すること、運転技量を向上させることを目的としています。また、運転時に生じたヒヤリハットを記録し、従業員への安全教育や改善指導に使用することで、交通事故の防止に役立っています。



ドライブレコーダーの映像



株式会社大協 取締役 保原 北本 竜也
事故後に報告書を作成し、その発生事象とともにドライブレコーダーを参照するわけですが、事故後の当事者の記憶といふものは、直後であっても長期経過後の点が多岐にわたるため、記憶が書き換えられていることが多々あります。自分自身の運転を客観的に把握して確認するといふ点でもかなり役立つものとなっております。

業務手順書の運用

マニュアルを活用し従業員の安全意識を高めています

事故や災害防止のために、リスク管理が求められる業務については、手順書を作成し従業員教育に活用しています。必要に応じて内容を見直し、その都度従業員に周知することにより、継続的に安全への意識を高めています。

さらに、大栄では、家庭ごみ・事業ごみの収集業務において、動画を取り入れた安全マニュアルを作成し、運用しています。これは、過去に発生した苦情・事故を分析し、各作業工程における危険源や留意点をまとめたもので、危機管理意識の浸透を図っています。

交通安全運転講習

外部から講師をお招きし、安全教育を強化しています

グループ全体で約80台の業務車両を保有し、お客様先から廃棄物を収集し、処理先まで搬送しています。事業をおこなう上で、「安全」は最優先事項であり、グループをあげて交通事故防止に取り組んでいます。

安全運転を徹底するための教育の一つとして、外部から講師をお招きし、安全教育を実施しています。



環境・安全に対する教育

マネジメントシステムに基づき、全パートナーに教育を実施しています

環境保全や事故・災害防止のためには従業員一人ひとりの意識が大切です。そのため、各事業会社のマネジメントシステムに基づいて、定期的な教育・訓練をおこなっています。

基礎的な教育として、全パートナーを対象に、方針をはじめマネジメントシステムの必要性、当期のプログラムなどについて説明し、意識の浸透・定着を図っています。

また、資格の保有が必要な業務や高いリスク管理能力が求められる業務に従事する部門を中心に、専門教育としてさまざまなプログラムを策定し、資格の取得を推進しています。



緊急事態対応訓練

火災や車両事故などの緊急事態への対応を訓練しています

火災や車両事故などの緊急事態を想定した対応手順を定め、その訓練を年1回実施しています。

消防署への通報訓練や避難訓練、消火訓練を実施し、いざというときに手順書通りに対応できるか、手順書に漏れがないかを確認しています。



酸素欠乏及び硫化水素中毒対策

リファックス

保護具着用訓練を毎月実施し、事故防止に努めています

有機性廃棄物の処理をするリファックスでは、廃棄物から発生する硫化水素中毒や、汚泥貯留槽に入るときに起こる酸素欠乏は大きな危険源です。

貯留槽のメンテナンスをおこなう処理センターでは、毎月エアラインマスクをはじめとする保護具着用の訓練を実施し、事故の未然防止に努めています。



人事に関する取り組み

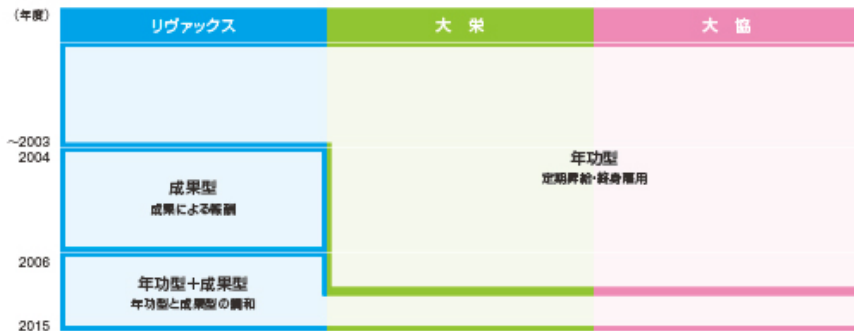
人事制度

「年功型」と「成果型」を調和させた人事制度を運用しています

グッドホールディングスグループでは、社員が安心して働き、且つ取り組んだ成果が正当に評価される人事制度を目指しています。人事制度は、社内外の環境の変化に反応し、その時々状況に合ったものに調整させていくことが大切であると考えています。

2013年度までは各社が独自の人事制度を運用していましたが、おかたづけサービスやクリスタップ清掃など新しい事業が生まれる中で、真面目に頑張る人やチャレンジする人を応援し働きがいを感じられる制度を目指し、2014年度に大衆と大協において人事制度を見直しました。以降は全社で「年功型」と「成果型」を調和したグループ共通の人事制度を運用しています。

■人事制度



■人事関連データ

| 指標 | 2011 | 2012 | 2013 | 2014 | 2015 |
|-------------|------|------|------|------|------|
| 従業員数(名) | 174 | 186 | 187 | 196 | 195 |
| 社員 | 131 | 135 | 138 | 141 | 143 |
| アルバイト | 43 | 51 | 49 | 55 | 52 |
| 女性従業員比率(%) | 5.4 | 6.5 | 6.1 | 9.7 | 13.6 |
| 女性役員比率(%) | 7.7 | 9.8 | 7.9 | 8.3 | 8.1 |
| 社員平均年齢(歳) | 40.2 | 40.3 | 40.0 | 39.3 | 39.0 |
| 社員平均勤続年数(年) | 13.2 | 13.1 | 13.0 | 12.8 | 12.2 |
| 社員離職率(%) | 7.3 | 2.9 | 7.1 | 8.3 | 8.7 |

※外資人の離職率は別

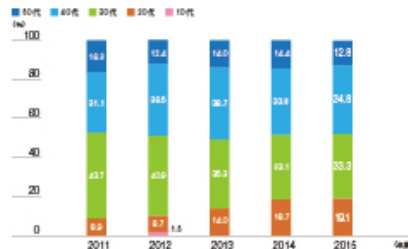
公正な評価・処遇

自己評価に基づく面談を実施し、社員が納得できる処遇を重視しています

社員の能力や仕事に取り組む姿勢、成果に応じて評価し、その評価に基づいて適正に処遇する制度を設けています。年に2回、社員が半期を振り返り自己評価した上で、上長が評価し、面談にて課題や来期に期待することなどを話し合います。

これは、半年間の目標を決めてそれに向かって努力すること、社員自身が何を求められているのかを意識すること、評価に見合った処遇をすることを目的としており、納得性の高い評価・処遇となるように努めています。

■社員の年齢構成



人材を創る研修

人材力向上のために「コーチング」を取り入れた研修で、会社と社員の「ベクトル合わせ」を進めています

新入社員研修として、廃棄物に関する基礎知識の習得や環境保全及び労働安全に対する意識付けを目的とした社内研修制度を設けています。

2014年度からは働く人たちに焦点をあて、社員一人ひとりが働くことや生き方について考え、会社と個人のベクトル合わせを進めるため、コーチングを取り入れた研修をおこなっています。役割や役割に応じたマネジメントスキルや課題解決力を学ぶ階層別研修、業務知識やスキルを身につける職能別研修を実施し、多数の社員が参加しています。

■2015年度の研修プログラム

| 種別 | 対象者 | 人数 | 実施 |
|------------|-----------------|-------------|----------|
| マネジメント研修 | 部長級, 課長級 | 10名 | 月1回/年8回 |
| リーダー研修 | 主任級 | 5名 | 月1回/年2回 |
| 新入社員研修 | 新入社員 | 3名 | 年3回/年18回 |
| フレッシュアップ研修 | 現職職 (おかたづけサービス) | 8名 | 年2回/年20回 |
| | 現職職 | 14名 | 年3回/年18回 |
| 女性社員研修 | 現職職 | 3名 | 年3回/年9回 |
| | 女性社員(一般社員) | 13名 | 年3回/年18回 |
| 営業研修 | 営業職 | 19名 | 年2回/年38回 |
| 人事研修 | 人事部門 | 2名 | 月1回/年12回 |
| 役員研修(個人研修) | 専務役, 監査役 | 8名 | 月1回/年11回 |
| | | 170名 | |

■2016年度の研修プログラム

| 種別 | 対象者 | 人数 | 実施 |
|------------|-----------------|--------------|---------|
| マネジメント研修 | 部長級, 課長級, 係長級 | 12名 | 月1回 |
| リーダー研修 | 係長級, 主任級 | 15名 | 月1回 |
| 新入社員研修 | 新入社員 | 2名 | 年4回 |
| フレッシュアップ研修 | 現職職 | 20名 | 年3回 |
| | 女性社員(一般社員) | 18名 | 年3回 |
| 営業研修 | 現職職 | 20名 | 年2回 |
| | 現職職 (おかたづけサービス) | 7名 | 年4回 |
| 人事研修 | 人事部門 | 3名 | 月4回 |
| 役員研修(個人研修) | 専務役, 監査役 | 7名 | 年3回/月1回 |
| | | 計102名 | |

キャリアアップの支援

幹部候補のレベルアップをサポートしています

グッドホールディングスグループを牽引していく社員を育成するため、次世代の経営幹部候補を対象に「マネジメント研修」を、次世代の管理職候補を対象に「リーダー研修」を毎月1回実施しています。

自身が感じている課題の共有やグループ討議を通して解決のための方向性を考えると共に、リーダーに求められることや、組織に対する責任、部下の管理・育成について学んでいます。



株式会社ダイキョウクリーン 営業課 主任 寺田 弘幸

企業を取り巻く外部環境が変化の中で、顧客接点の集約場である営業担当には変化が求められています。求められるのは、従来の自由放任型の営業スタイルではなく、顧客の抱えている課題を的確にとらえ、解決につながる提案型の営業です。そういった力を身に付ける為、グループディスカッションや研修参加の積極的参加を「生の声」として聞かされて頂けるのは大変貴重な経験です。同じ職場や社内の人とだけ話し合っているよりも考え方の幅も広がり、自分も成長していき、上で大いに貢献を考えています。これらは将来、自分の業務においての「強み」になります。

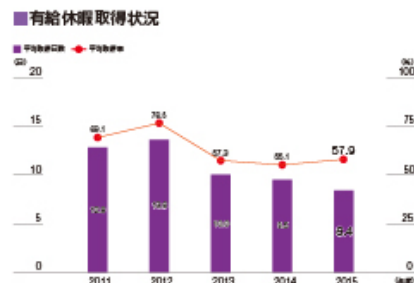
安心して働ける環境づくり

ワーク・ライフ・バランス

ライフイベントにあった制度を整備し、仕事と家庭の両立を支援しています

性別や年齢などの属性にとらわれることなく、分け隔てのない採用、役員・管理職への登用、賃金体系とすることで、多様な人材が活躍できる環境づくりに努めています。

特に、従業員のワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の実現を重要テーマととらえ、出産や子育て、家族の看護・介護などのライフイベントにあった制度を整備し、仕事と家庭の両立を支援しています。配偶者の出産時には3日間の特別休暇制度を設けている他、リヴァックスでは、病院の通院や付き添い、子どもの行事への参加に利用しやすいよう、半日単位で有給休暇を取得できるようにしています。



■主な支援制度

| 制度名 | 制度の内容 | 2015年度利用者 |
|------------|--|------------------|
| 産前産後休業制度 | 出産前及び出産後において一定の期間で休業が可能です | 該当者なし |
| 育児休業制度 | 育児に専念するため、性別に関係なく、子が1歳に達するまで(最長1歳6ヶ月まで)休業が可能です | 0名 |
| 介護休業制度 | 介護を必要とする家族の介護のために一定の期間で休業が可能です | 0名 |
| 短時間勤務制度 | 3歳に満たない子を養育する社員または家族を介護する社員は、所定労働時間の一部を短縮した勤務が可能です | 0名 |
| 定年退職者再雇用制度 | 60歳を超えても働く意欲があり、一定の基準を満たすすべての方を嘱託として再雇用します | 2名 (該当者2名のうち) |
| 自己啓発支援制度 | 会社の認めるビジネススクールの受講や資格の取得に対し支援金を支給します | 延べ9名 |
| ボランティア休暇制度 | ボランティア活動に従事する社員に2日以内の特別休暇を付与します | 0名 |
| 慶弔見舞金制度 | 結婚祝金・出産祝金・傷病見舞金・災害見舞金・死亡弔慰金があります | 延べ19名 |

気質診断の実施

最適な人材配置の参考にしていきます

研修に参加する全社員を対象に気質診断をおこなっています。これは、会社と個人のベクトル合わせの一環として、自身のパーソナリティと行動特性を意識し、さらにそれらを業務や職場のコミュニケーションに生かしてほしいと考えたものです。

個々の気質を把握することによって、適材適所に配置、力を発揮できる場を提供し、人材力を高める取り組みを推進していきます。

従業員アンケートの実施

働きやすい職場づくりに活用しています

従業員一人ひとりの仕事に対する考え方や働きがいについて把握し、働きやすい環境を整備していくことを目的に、計5回の従業員アンケートを実施しました。アルバイト・パートを含めた全従業員を対象に、自身の仕事内容や職場環境、周囲との人間関係などについて無記名で回答を得ました。

定期的アンケートを実施することで改善できたことや課題を把握し、その結果を意識しながら職場づくりを進めていきます。

永年勤続者・社長賞表彰

功績を称え、22名を表彰しました

勤続10年、20年、30年の節目にあたる社員の功績を称え、永年勤続者として表彰しています。2015年度は勤続10年社員2名、勤続20年社員8名、勤続30年社員1名、計11名を表彰しました。

また、大栄ノリリーブでは、会社のために特に力を尽くしてくれた従業員14名に社長賞を贈呈しました。



リヴァックスの永年勤続者表彰

採用活動

9名が新たに仲間に加わりました

事業拡大に伴う人員増強として、2015年度は新卒採用者4名、中途採用者5名の仲間を迎え入れました。2016年度入社の新卒採用では、2名が4月に入社しました。

また、アルバイトの活躍支援にも力を入れており、2015年度は7名、2016年度は4名のアルバイトを正社員に登用しました。



2016年度入社



株式会社リリーブ おかたづけ事業部 取締役 藤本 太郎
私は数年前のアルバイト経験を経て、正社員に就任させていただきました。アルバイト時代とは違い、当然責任を負うことも多くなりましたが、現在はおかたづけ事業部の営業マンとして、会社への貢献の気持ちと、やりがいを持って業務に取り組んでいます。

健康診断の実施

健康診断を実施し、必要に応じて就業内容や労働時間に配慮しています

すべての社員を対象に年に1回（深夜勤務のある社員は半年に1回）健康診断を実施しています。健康診断の結果がC～E判定の社員については、医師に相談し、就業上の措置や健康保持のためのアドバイスを受けています。

これらの情報を提供し社員の健康管理に対する意識を高めると共に、必要に応じて就業内容や労働時間に配慮するなど、健康支援に努めています。

健全な労使関係

より良い労働環境のために労使双方が協力しています

リヴァックス労働組合及び大協労働組合は、管理職（課長職相当）と労務・経理担当者を除いた社員で構成されており、ユニオンショップ制を採用しています。労働組合と会社経営側の労使交渉は適宜おこないます。また、大栄においては、アルバイトも含めた全従業員を対象に、定例労使協議会を月に1回開催しています。

労使交渉では、賞与の支給月数をはじめ、交通費の見直しや有給休暇の取得など、さまざまな議題を検討し、より良い労働環境に近づこうと協力して取り組んでいます。

3S活動の推進

「整理・整頓・清掃」をグループ全体で推進しています

きれいな職場を保つことが労働安全につながるの考えのもと、3S活動（整理・整頓・清掃）を推進しています。例えば、備品や工具類の使用頻度基準を定め、それを元に必要数及び保管場所を決め、誰が見てもわかるよう「見える化」する、書類をデータ化し廃棄するなど、さまざまな手段を講じています。

これらの活動は、安全面だけではなく、仕事に使う備品や道具を探し回すような無駄な動きを減らし、生産性の向上にもつながっています。

企業市民として、地域社会との交流や次世代の育成に取り組んでいます

■活動の目標と実績

| 活動テーマ | Plan 2015年度目標 | Do 2015年度実績 | Check 結果 | Action 2016年度目標 |
|------------------|-----------------------------------|---|----------|-----------------|
| リヴァックス | | | | |
| 社会に安心、信頼される企業づくり | 外部評価の実施 | → トップダイアログ開催 | ○ | 外部評価の実施 |
| | すべてのステークホルダーから安心、信頼されるための継続的な取り組み | → CSR報告書の発行 → 報告書賞への応募 → 視察学習の実施 | ○ | 継続的な実施 |
| 大 栄 | | | | |
| 社会に安心、信頼される企業づくり | 地域交流の実施 | → ソフトボール大会に参加 → 自治会地域清掃の参加 | ○ | 継続的な実施 |
| | 社会活動の実施 | → CSR報告書の発行 → 清掃活動の実施(週1回) → 伊丹市内の小学校へサツマイモ苗を贈贈 | ○ | 継続的な実施 |
| 大 栄 | | | | |
| 社会に安心、信頼される企業づくり | 地域社会への貢献 | → CSR報告書の発行 → こども園問題に参画 | ○ | 継続的な実施 |

社会貢献活動

施設見学の受け入れ リヴァックス

さまざまなステークホルダーに公開し、廃棄物処理への理解を促進しています

リヴァックスでは、お取引のある排出事業者様をはじめ、学生や地域の方にも処理施設を公開しています。

2015年度は、415名84団体(うち取引外4団体)が見学に来られました。



JICA研修の受け入れ

リヴァックス リリーフ 大 栄

海外の廃棄物に関する課題解決を支援しています

独立行政法人国際協力機構(JICA)関西では、各国の廃棄物に関わる自治体職員の行政能力向上を目的とした研修をされています。2015年度は6月と11月、3月に研修員の受け入れに協力しました。

リヴァックスでは、バイオマス燃料化事業や処理フローなどについて、大栄では、ごみ収集現場の視察や作業における危険源とそれらの対応策、リリーフでは、海外リユースの概要を紹介しました。



環境教育

廃棄物や農業について、子どもたちに学びの機会を提供しています

グッドホールディングスグループでは、未来の消費者に対する教育支援として、地域の学校で環境教育をおこなっています。

リヴァックスでは、私たちの生活に身近な「清涼飲料」から環境問題について考えてもらおうと、2008年度から関西大学第一中学校2年生に環境学習を実施しています。6月の事前学習では、コカ・コーラウエスト株式会社と協働で、飲料商品のリサイクルについて講演しました。そして7月には、リサイクル施設を見学していただきました。

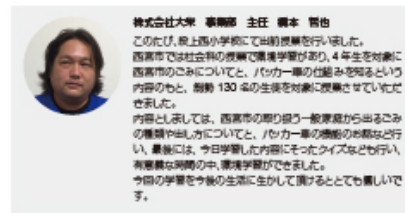


関西大学第一中学校の施設見学

大栄では、西宮市内の小学校や高校で出前授業をおこなっています。2015年度は5月に小学校を訪問し、ごみの種類とその分別方法、ごみ収集車の仕組みについて実際の車両を用いて説明しました。



阪上西小学校での出前授業



株式会社大栄 事業部 主任 橋本 賢也

このたび、阪上西小学校にてお前授業を行いました。西宮市では社会科の授業で環境学習があり、4年生を対象に西宮市のごみについてと、リカカー車の仕組みを知るという内容のもと、約130名の生徒を対象に授業させていただきました。内容としては、西宮市の周り限り一般廃棄物から出るごみの種類や出し方についてと、リカカー車の仕組みのお話などを行い、最後には、今日学習した内容にそったクイズなども行い、有意義な時間の中、環境学習ができました。今回の学習を今後の生活に生かして頂けるととても嬉しいです。

大協では、2010年度から伊丹市内の小学校にサツマイモの苗を寄贈し、栽培を通して、子どもたちの環境教育や食育を支援しています。

グッドホールディングスグループは、NPO法人こども環境活動支援協会(LEAF)が主催する「甲山農地プロジェクト」にスポンサーとして参加しており、この苗は、LEAFが落ち葉でつくった堆肥をもとに育苗したものです。

2015年度は17校及び特別支援学校と公立幼稚園2園に2,045苗を寄贈しました。



インターンシップ生の受け入れ

リリーフ

高校生・大学生の就業体験の場を提供しています

グッドホールディングスグループでは、高校生・大学生を対象に、就業体験を通じて社会を知り、自分の将来について考えてもらうことを目的に、インターンシップをおこなっています。

2015年度は、リリーフが近畿大学の学生2名を受け入れ、2週間の期間で、営業同行や事務処理などを体験していただきました。



子ども農業塾の開催

社員がスタッフとして、子どもたちの農業体験・学習をサポートしています

西宮市内の小学校 4年生から6年生を対象に、半年にわたって市内の甲山農地で土づくりや米づくりを体験する「子ども農業塾」をおこなっています。「食」の基になる農業体験を通して、農業の楽しさや作物を育てることの難しさ、自然循環の大切さを学んでもらおうと、2011年度から大衆が主催し、運営事務局の LEAF と協働で開催しています。

2014年度からは、新入社員に対する社員教育の一環として、グループ全体で取り組んでいます。



子ども
農業塾
土づくり・米づくり



株式会社リリーフ リュース事務局 藤原 ひかり
今回農業塾に参加させて頂いて、子どもたちと一緒に「食」「農」について勉強させて頂きました。また、社員教育の一環として取り組み、子どもたちのリーダーを体験して、初めは子どもたちとコミュニケーションが取れなかったのですが、野菜を一緒に収穫したり、田植えに挑戦したりと少しずつ子どもたちとふれあい、今後の大切さと生き物の大切さを学び、子どもたちと一緒に成長できたかなと思いました。最後になりましたが、この農業塾に参加させて頂いたことに感謝いたします。

企業スポーツ活動

セーリングチームが各種大会に出場 念願の世界大会出場を果たしました

グッドホールディングスグループでは、2013年にセーリングチームを創設し、いろいろな大会に出場しています。2015年4月から2名が加わって2艇4名となり、練習も一段と活気にあふれ快進撃を続けています。

2015年11月に開催された「全日本スナイプ選手権大会」では、平田・田邊コンビが6位入賞の好成績をおさめ、遂に世界大会の出場権を獲得。2016年6月にブラジルで開催された世界大会に出場しました。

2015年度業績・活動報告

7月 関西実業団ヨット選手権大会

森谷・河野コンビ 優勝
平田・田邊コンビ 2位
チーム総合成績 優勝

8月 国際スナイプ級関西選手権大会

平田・田邊コンビ 優勝
森谷・河野コンビ 2位

9月 体験試乗会開催

10月 全日本実業団ヨット選手権大会

平田・田邊コンビ 優勝
森谷・河野コンビ 15位
チーム総合成績 4位入賞

11月 全日本スナイプ級ヨット選手権大会

平田・田邊コンビ 6位入賞



お客様とのコミュニケーション

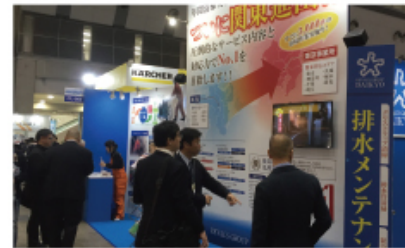
展示会への出展

お客様との接点を増やしています

事業内容やCSRの取り組みをたくさんの方に知っていただくために、各社がさまざまな展示会に出展しています。

2015年度に出展した主な展示会

| 開催月 | 出展者 | 名称 |
|-----|-----------|-----------------------|
| 4月 | リリーフ | バリアフリー2015 機性期高齢者2015 |
| 5月 | リヴァックス | 第24回 2015NEW環境展 |
| 5月 | ダイキョウグリーン | 関西外資ビジネスウィーク2015 |
| 6月 | リリーフ | フューネラルビジネスフェア2015 |
| 7月 | リヴァックス | 下水道展 15東京 |
| 8月 | リリーフ | 賃貸住宅フェア2015 in東京 |
| 10月 | リヴァックス | びわ湖湖境ビジネスメッセ2015 |
| 11月 | ダイキョウグリーン | クリーンEXPO2015 |
| 3月 | リリーフ | フランチャイズショー2016 |



第7回廃棄物管理実務者セミナー

リリーフでは、展示会や取引先主催のイベントで講演をおこなっています。家庭内事故防止の観点から、生前から身のまわりを整理しておくことの大切さについて、お客様の事例を交えて紹介しました。



合同慰霊祭の開催 リリーフ

故人と遺品への想いを大切にしています

リリーフでは、故人様及び遺品に対する供養と慈しみの心を大切に考え、年2回春と秋に合同慰霊祭を開催しています。これは、スタッフが人の死や家族の悲しみに接する中で、遺品にはたくさんの思い出がつまっていることを感じ、感謝の気持ちを込めて供養したいという想いから始まりました。

これからも、故人様やご遺族に寄り添う気持ちを忘れず、誠実で丁寧な対応を心掛けていきます。



セミナーの開催 リヴァックス リリーフ

お客様や消費者への啓蒙活動に努めています

リヴァックスでは、廃棄物管理に関わる担当者様を対象としたセミナーを開催しています。

2015年度は6月にBUN環境課題研修事務所 主宰の長岡文明氏をお招きし、「重要通知に学ぶ廃棄物処理法」、2月には行政書士エース環境法務事務所 代表の尾上雅典氏をお招きし、「廃棄物管理責任者がやってはいけない4つの間違い」と題する講演をしていただきました。いずれも参加された90%以上の方に満足いただき好評でした。

消費者課題への取り組み

海外リユース リリーフ

国内で出た不用品を、海外で必要としている方々にお届けしています

おかたづけサービスをおこなうリリーフでは、回収した不用品のリユース（再使用）に着目し、それらを必要とする海外の人々に販売する取り組みを進めています。

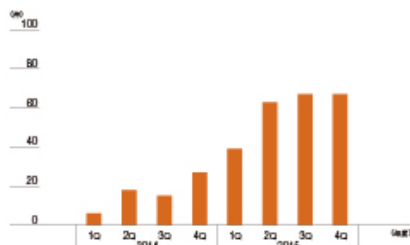
国内では需要が少なくても、需要のある国に輸出することにより、まだ使えるものを捨てることに抵抗があるお客様の気持ちを和らげ、且つ、リユースするものは処分費がかからないためサービス料金の低減にもつながります。

この取り組みに共感してくださるお客様を通じて回収点数を着実に伸ばす一方、カンボジアやタイなどの東南アジアを中心にネットワークを構築し、徐々にその販路を広げています。

2015年4月からは専任の担当者をおき、マーケティングやバイヤーのサポートを強化し、海外の方々にさらに喜んでいただけるサービスを展開していきたいと考えています。



■コンテナ輸本数(四半期推移)



ウェブカメラの設置 リヴァックス

廃棄物処理状況をリアルタイムで公開しています

リヴァックスでは、廃棄物の搬入や処理状況がリアルタイムで確認できるように、施設内にウェブカメラを設置し、ホームページ上でその模様を公開しています。

ウェブカメラの設置箇所は4箇所あり、それぞれ、①廃棄物の搬入・計量場所、②破砕施設の全景、③破砕機の投入口付近※、④乾燥施設の搬入ヤードとなっています。

いつでもどこからでも、処理の様子が確認できるということ、お客様だけでなく近隣地域住民の方々からも好評をいただいています。

※③のカメラは、お客様情報を保護するため、廃棄物を排出されたお客様だけに公開できるようにスクリーンも設置。

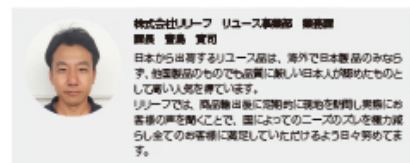


過積載の防止 リヴァックス

お客様の廃棄物重量と車両の最大積載量を毎回照合しています

産業廃棄物を収集運搬するリヴァックスでは、毎回取得しているお客様の廃棄物重量データと車両の最大積載量を照合し、過積載の防止に努めています。

積載量を超過した場合は、お客様に報告して一緒に原因を考え、その対策を講じています。



処理前契約の徹底 リヴァックス

お客様との事前契約締結を徹底しています

産業廃棄物の処理を委託及び受託する際には、委託契約の締結が法律により定められています。弊社グループでは、契約書の事前締結を徹底し、締結されないまま処理を受託する法律違反を防止しています。

とりわけ、産業廃棄物に限定した事業をおこなうリヴァックスでは、取引開始前にお客様情報を登録し、定期的に関係者で締結確認をおこなうことにより、処理前の契約締結に努めています。

廃棄物計量システム 大栄 大協

ごみ処理量を「見える化」し、料金の明確化とごみの減量化を実現しています

大栄と大協では、車両にごみを積み込むだけで重量を計測できる「スケールトラック」を導入し、各取引先のごみ重量を一元管理しています。

このシステムの導入により、お客様に対してごみ処理量の透明性を確保できると共に、ごみの発生抑制・減量化の提案につなげることができました。数字による「ごみの見える化」は、お客様のごみ減量に対する意識を高め、全体として予想以上の減量に至り成果を上げています。

また、ごみの排出量に応じて収集費用を算出する「従量課金制」を取り入れ、「ごみ減量＝経費削減」を実現し、お客様の間にさらに広がっていきました。ごみの収集量が減少すれば、弊社グループの売上は減少しますが、ごみ減量の提案を通じて取引先件数を増やすことで、結果として売上を伸ばしています。これは、営業努力もさることながら、お客様から弊社グループへの信頼の証であると考えています。

■廃棄物計量システムの流れ



契約外廃棄物の混入防止 リヴァックス

コンテナに掲示板を設置するなど、混入防止に努めています

お客様から受託した産業廃棄物は、リヴァックスの処理基準に則り処理可能なものであるか否かによって、分別をお願いしています。

事前の契約とは違うものが混入されていた場合、適正な処理が難しくなるだけでなく、それが危険物であった場合は、事故や火災の原因になる可能性があります。

これらの混入があった場合は、すみやかにお客様に報告し、再発防止に努めています。また、お客様の事業所に設置しているコンテナ箱に混入禁止物の掲示板を設置するなど、予防にも努めています。



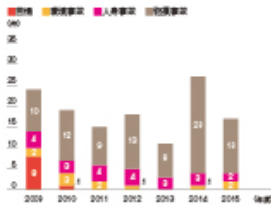
苦情・事故

2015年度の苦情・事故は53件(苦情4件・環境事故3件・事故46件)で、前年度59件(苦情4件・環境事故2件・事故53件)と比較し、わずかながら減少しました。

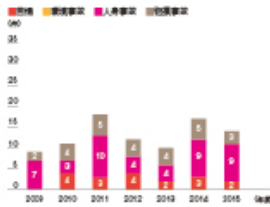
会社別みると、大協/ダイキョウクリーンの件数が増加しており、これは収集コースや作業体制の変更等により慣れない作業が増えたことが原因の一つと考えています。

H2012～2014年度の苦情・事故はP53～55に掲載しています

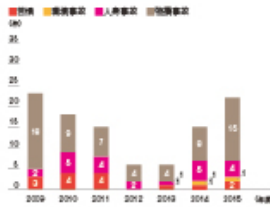
リポックス



大協 / リリーフ



大協 / ダイキョウクリーン



リポックス

苦情 0件
環境事故 2件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|---------------------------------------|--------------|--|
| お客様先でピット清掃中に油漏ししたため廃棄すると、隣りから騒音が響いていた | 燃料タンクの油漏 | メーカーの3ヶ月点検の項目に、不具合のあった電機弁の点検を追加 |
| お客様先で作業中にシンダージャーから粉塵漏れが発生した | シンダージャー部分の劣化 | ・粉塵漏れはシンダージャーを交換 ・作業時一斉点検を実施し、柱内の3ヶ月点検項目を追加 ・発生を察知した場合は事故対応要請を要請 |

人身事故 2件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|--|---|---|
| 転落事故で転倒の交換を完了した際に、重量物を持ってもう一人の作業員を倒していたところ、少し動いた様子でパンプスが倒れ、両手の小指を怪我させた | 転落時同時に倒れたこと、これが原因と想定作業が完了したとの思いから両手が響いていた | KY(危険予知)活動を徹底し、作業員同士が怪れないよう声を掛け合う ・重量物の作業時は作業員が離れる |
| お客様先でピット清掃中に、臭いした汚水が鼻と目にかかり発症した | 保護メガネを着用していたが隙間から入り、また、汗が流れていたため不要なはずだった | ・隙間防止のため、洗浄時はシールド付コンスを使用する ・防護眼鏡が曇る作業可能な基準を超えている場合は、直付の保護眼鏡を着用する |

物損事故 13件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|--|---|---|
| 提携先の現場で持ち出しのためバックしたところ、隣りの方がシベルと擦れした | シベルの運転手がこちらの運転を邪魔していると思い込んでいた | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| 赤信号で停車中にリリーフ現象が発生し、前の車に衝突した | 助手席に置いていた荷物が重なるようとして、ブレーキが効かなくなってしまった | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| 場内でコンテナを引上げた際に、フックからコンテナが外れ、乗り落ち、アスファルトが割れた | コンテナがフックに繋がっていないと思い込んでいた | コンテナ引上げ作業時は、運転席から降りて、乗降にフックに収まっていることを目視で確認する |
| お客様先から退出する際に、切り差しのためバックしたところ、後方の車両に接触が予測された | 左側の進行前に発生したら、後方確認が不十分だった | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| お客様先で重量物を積んだ後、コンテナからはみ出していた重量物が上部の電線に引っかかり、車を支えていた支柱が崩れた | 荷い端をバックで走行していたため、サイドミラーより右側の電線に接触が予測し、上部の確認を怠っていた | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| 場内の搬送車にバックで入った際に、車両を壁に突き飛ばしてウイカーが倒壊した | 壁とミラー越しでは見えづらい上、自由のフィンが折れて見えなくなっていた | ・ラインテープの貼り直し ・月に1回、ラインの裏がれや汚れを確認する |
| 転落事故の燃料搬送車で工場の排出口が倒壊したため、高圧水を噴射しようとしてエアビンプローを起動したところ、排出口の落下で足踏の一部を破損した | 排出口の燃料が完全している状態でエアビンプローを起動させたことにより、ホッパー内に物じんが舞い、燃焼の条件が揃った | ・排出口の完全点検をメーカーから要請へ変更した ・排出口の落下防止及びビンプローの動作時に備えて、転落事故の手続きを改訂し社内教育を実施した |
| 搬入車両が場内にバックで進入していたところ、シャッター降の柱と車両の両方左前方が接触した | ・運転手の後方確認不足 ・シャッター降が不十分まで進入した | ・運転手が倒壊した際の待機場所を指定し、搬入時の待機を徹底する ・シャッター降を閉じたままにしない |
| お客様先で空コンテナを搬送する際に、コンテナ後面を材料倉庫の扉に接触させ破損した | 奥の扉で扉の上で開きにくい状況だったが、ミラーのみで後方確認を怠っていた | 作業時に扉の上から降りて奥の状況を確認するよう作業員を変更した |
| 一方通行の道路を走行中に一時停止を無視した車と衝突した | 優先運転を走行していたため、飛び出してこないと思い込んでいた | 事故内容を周知し、注意を喚起した |

| 内容 | 原因 | 対策 |
|---|--|---|
| 駐車場でコンテナを引上げた際にフックからアスファルト、フェンスを破損した | コンテナがフェンスに引っ掛かっていることに気付かず、引上げようとした | コンテナ引上げ作業時は、運転席から降りて目視及び触れし確認をする |
| 取付先の敷地から半歩として奥にハンドルを切ったところ、入口付近の縁石に乗り上げた | 前日の雨で地面が濡れていたため、タイヤが滑りやすくなった | 安全運転への意識を確認するため、従来のアルコールチェック表に、前日の雨時対応を記入する欄を追加した |
| お客様先でコースを片付けていたところコースが狭くなり、その狭い部分で車が擦れ、その狭い部分で車が擦れ、その狭い部分で車が擦れた | いつもは二人で片付けるが、雨時対応の引取りに一人で行ったため、一人で片付けていた | 事故内容を周知し、注意を喚起した |

大協 / リリーフ

| 内容 | 原因 | 対策 |
|-------------------------------|--------------------|-----------------------|
| 市民の方から収集コースの清掃員に対する苦情が寄せられていた | 収集コースの清掃が足りなかった | 全従業員で作業員数を再確認した |
| 距離先へ持ち込んだ重量物が処理不可物が紛れていた | 重量物の内容の確認が十分ではなかった | 収集時に内容の確認を徹底するように指導した |

環境事故 0件 人身事故 9件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|---|---|---------------------------------|
| こみステーションと自社車両の間を走って通り抜けようとして、伸びていた木の根に足を踏んでしまった | スピード優先で作業していたため、周りの状況が見えていなかった | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| バイクで走行中に、保護な車線変更してきた車と衝突した | 信号が解除も確認をするとは思ってなかった | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| 交差点を左折時に、左後方から直進して来たバイクと接触し、その間にバイクが倒れた | ・サイドミラーをよ確認していなかった ・事前に後方確認を怠った | ・当事者に厳重注意し、全従業員に安全運転を徹底するよう指導した |
| 積り途中に歩道歩道を自転車で走行していたところ、お車線に衝突され倒れかけた | 歩道幅が狭かったため、車は寄らないだろうと誤っていた | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| 倉庫の整理作業中に、壁に立てかけていたスノーボードが倒れ、後方確認が足りなかった | スノーボードが倒れるリスクを認識していなかった | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| 次のこみステーションに向かうとして、自身の定に遅れて到着し、急いで出発した | 定元をよく見ていなかった | 作業前に周りの状況を確認し、落ち着いて出発するように指導した |
| 一度に複数のこみステーションを待たせ、保護して車両に投げ入れたところお車を壊した | 安全マニュアルを守らず、保護な作業をした | 安全マニュアルに従って作業するように周知した |
| 会社から出発しようとしたところ、急に手を握られていた作業員が倒れ、その間に手を握った作業員が倒れた | 自社作業のため油断して安全確認を怠り、他の従業員が倒れて手を握っていることに気付かなかった | 会社から出発する前にも、左側の確認を徹底するように指導した |
| バイクで走行途中に立って来たバスに突かれたり、パンプスを倒して倒れた | 積り途中にバスターに接触しようとしたため倒れかけた | 事故内容を周知し、注意を喚起した |

物損事故 3件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|-------------------------------------|------------------|--------------------------------|
| 交差点を左折時に、一時停止せず進入してきた車と衝突した | 左右確認が十分ではなかった | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| 次のこみステーションへ移動しようとしたところ、後方から強い衝撃を受けた | 十分な後方確認ができていなかった | ・当事者に厳重注意すると共に、事故内容を周知し注意を喚起した |
| こみステーションに向かう途中に、後方の車両に衝突した | 十分な後方確認ができていなかった | ・運転者に厳重注意すると共に、事故内容を周知し注意を喚起した |

大協 / ダイキョウクリーン

| 内容 | 原因 | 対策 |
|---------------------------------|---|---|
| お客様先で、吹き飛ばして置いたお年寄りのための傘が、雨で濡れた | 収集の妨げになっていたにも関わらず、本人は降参に気づいていなかった | 同じ意味を伝えるにも思いやりや配慮で伝える印象が異なることを意識し、市民の方への配慮の意識を高めようとする |
| 取付先から、収集した重量物が車から落下しているのを確認した | 落下防止用のシートが破れていたため緊急処置として他のシートを使用、通常よりサイズが小さかったため長時間から重量物が落下した | ・予備のシートを購入する ・作業前に現場に予備がないかを確認する |

環境事故 1件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|---------------------|-------------------------------------|--|
| お客様先で重量物から油漏れが確認された | 自社の日次点検でも、メーカーの点検でも確認していない箇所から漏れていた | ・メーカーから検査書の提出を受け部品を交換した ・作業中に発生を察したら、その場で確認するよう周知した |

人身事故 4件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|---|--|----------------------------|
| 両手が降りてこみステーションに向かうとして、倒壊に巻き込まれた | 定元をよく見ていなかった | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| 台車に乗せていた積材が落ちそうになったため、助こうとして倒壊し、手を怪傷した | 積材を台車の前面に置いていたためパンプスが割れた | 台車から落ちる恐れがある場合は積材を降ろして作業する |
| 一旦車に入れた重量物(燃料)を持ち上げようとして手が滑り、車の切り口で腕を怪傷した | ・時間短縮のため一度に重量物を持ち上げた ・一旦車が下の台車に引っかかっていたため持ち上げられなかった | ・重量物を持ち上げないよう、事故内容を周知した |

| 内容 | 原因 | 対策 |
|--------------------------------|----------------------------|------------------|
| 大型の機材の中に、プレスしていた木材が固定に当たって打撲した | 下方向に木材が落ちると思っていたため避けられなかった | 事故内容を周知し、注意を喚起した |

物件事故 15件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|---|---|--|
| 前後から車が来たため、後方の車に建ろうと車両を動かしたところ最速に接触した | 慣れた道にもかかわらず、周囲の視界を確保できなかった | 周囲や死角の視界を確保しないよう指導した |
| 雪引きのゴミ車から出ようとして、左後方をシャッターに接触させられた | 車両後方の外輪差の視界が不十分だった | 当事者に厳重注意すると共に、事故内容を周知し、注意を喚起した |
| 収集を終えて退山しようとして立ち上がったところ、右後方のライトが壁に接触した | 道路は狭いからバックで退山するルートだったが、その視界を確保しバックで進入していた | 道路幅が狭い場合は助手に誘導してもらおうか、車両を導いて退山するよう指導するよう指導した |
| 収集のためバザードを出して右ハンドルの窓を切ったところ、後方から車と衝突した | 後方車が止まるだろうと思い込み、安全確認が不十分だった | 通常とは異なる動きをする際は、必ず一旦停止して安全を確認するよう指導した |
| 緩やかな坂道でサイドブレーキをかけて収集していたところ、車が動き出しゴミステーションの壁に接触した | 異常な停車位置を確保できなかったため、サイドブレーキが利いていなかった | 勾配のある場所で停車する場合は制動をゆるぎないように指導した |
| 交差点を右折時に、左折してきた対向車と接触した | 左側の安全確認に怠り、対向車の動きを見逃していた | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| 不意な収集時に車両火災が発生した | ガスボンベが蒸気を出していた | 中身の確認を徹底するよう周知した |
| 急停車した前方車両に衝突した | 車間距離が短かった | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| 乗降しようとしてドアを開けたところ、後方から来た車のミラーに接触した | 収集が滞っていたため急こうと確認が疎かになった | 乗降時、降車時は必ず両辺の確認をするよう周知した |
| 不意な収集時に車両火災が発生した | スプレー缶が蒸気を出していた | 中身の確認を徹底すると共に、事前に掛けて発生の可能性が高まるので注意を促した |
| 車両をバックしたところ、右後方に停車していた車両に接触した | 左側の障害物に気をとられ、右側の車両は通過したと思い込み確認を怠った | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| 交差点を走行中に左折車がガードレールに接触した | 左側の道路から走行してくる車に気をとられ、ガードレールを障害物とした | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| 処置先にて、作業の標高が茶畑の崖み帯のミラーがバーに接触した | 考え事をしていて基本的な確認を怠った | 当事者に厳重注意すると共に、事故内容を周知し、注意を喚起した |
| 自社管内で吸引車を後退時に暴走させ、崖に駐車していた車両に接触した | 暴走のロックの掛かり具合を確認していなかった | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| 処置先の場内を右折時に、置いてあったカーブコーンを右側壁で寄せ込み家裏した | 道路を間違えて進っていたため、寄せ込みの安全確認を怠った | 事故内容を周知し、注意を喚起した |

環境パフォーマンスデータ

グッドホールディングスグループにおける過去5年間の推移です。INPUTとOUTPUTの数値を把握し、改善のための指標としています。

■電気使用量



■都市ガス使用量



■天然ガス使用量



■ガソリン使用量



■水使用量



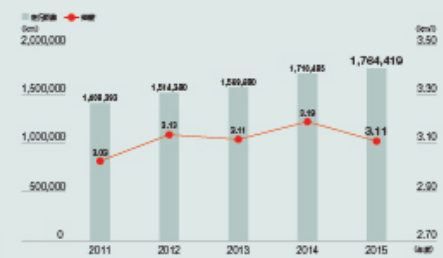
■水域への排出量



■CO2総排出量



■軽油の燃費



環境測定結果

リヴァックスでは、法律や環境保全協定に基づいて、臭気及び大気、水質の測定を定期的におこなっています。2015年度も前年度に引き続きすべての測定値が規制値内でした。

臭気測定結果 (2015年10月22日:敷地境界4地点で測定)

Table with columns: 臭気物質名, 規制基準, 実測, and 5 measurement points (西側, 北側, 南側, etc.). Rows include Anmonia, Methyl mercaptan, Sulfuric acid, etc.

大気汚染物質測定結果 (2015年10月22日, 2016年3月7日実施)

Table with columns: 測定項目, 規制基準, 単位, 1回目, 2回目. Rows include Nitrogen oxides (NOx), Sulfur oxides (SOx), and particulate matter (ばいじん).

重金属等の水質検査結果 (2015年5月27日採水)

Table with columns: 測定項目, 単位, 規制基準, 結果. Rows include water temperature (水温), pH, Cadmium (カドミウム), etc.

西宮市による水質測定結果 (2015年度)

Table with columns: 測定項目, 規制基準, and monthly data (4月 to 3月). Rows include water temperature (水温), pH, BOD, SS.

過去の苦情・事故

2014年度の苦情・事故

Table with 3 columns: 内容 (Content), 原因 (Cause), 対策 (Countermeasure). Rows include 苦情 0件 / 器物事故 1件, 人身事故 3件, 物件事故 23件.

経営

環境

人権・労働慣行

コミュニケーション

資料編

過去の苦情・事故

大衆 / リリーフ

苦情 3件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|---|------------------------------|--|
| 寒い道路でゴミ収集車が作業している、一般車両の通行を妨がっていたと苦情をいただいた | 寒いだけでなく、他の車両への配慮が不足していた | どんな状況でも一般車両を優先するように集積した |
| 市民の方から収集車にゴミが積れているとの苦情をいただいた | カラスよけネットの網にあつたゴミを見落としていた | 収集車降りた後、ゴミステーション前に必ず最終チェックをするように集積した |
| 市民の方から収集車無用の物置が多いとの苦情をいただいた | 作業中に休憩中に、車内でゴミを積んで大きな声で話していた | 休憩時であっても、市民の方への配慮を忘れず、不快感を与えないよう行動したいように集積した |

職務事故 0件 / 人身事故 9件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|---|---|---|
| ゴミを収集中に落ちていたゴミを踏み、市民苦情を発生した | 足元を注意していなかった | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| 収集現場に到着し、車庫から降りた車にパワンスを押し立てた後トラックが荷物を出さず、原因でゴミを強打し乗員を怪傷した | 不注意でパワンスを押し 荷物が足元で倒えなかったため原因がわからなかった | 乗員に負担をかけずに降りるよう、当事者に注意を促した 作業前に荷物の状況を確認し、危険物や障害物が無い状態にするよう集積した |
| 重大なゴミを片手だけで持ち上げ、乗員を怪傷した | 安全マニュアルを守らず、不適切な作業をした | 安全マニュアルに従って作業するように周知した |
| 袋の底からゴミの破片が突き出ていることに気付かずゴミを乗せ、破片が底にあたって乗員を怪傷した | 濡り出す荷物の確認が不十分であった | 安全確認を徹底した |
| 積み重ねたゴミを車上から乗員に落とす行為をしていたところ、その下にあった乗員が怪傷を受けた | 危険予測と距離が不十分であった | 安全確認を徹底した |
| お祭り時にパッカー車のセミローが走行中に怪傷した | 安全確認を怠った | 当事者に厳重注意し、全乗員に安全確認を徹底するよう集積した |
| ゴミ置き場と集積場の距離が近いことによりゴミが、手前を乗せ、次のゴミステーションに向かう途中で、落ちてしまった状態に陥り、お祭り時発生した | 作業中に落ちて足元を注意していなかった 足元をよく見ていなかった | 作業現場の作業環境を把握すること、自身の体力を過剰に働かせないことを含め、事故内容を周知した |

物損事故 5件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|---|---------------------------------|--|
| 通行を妨がっていた駐車車両をかわそうとバックした際に、車庫に接触した | 十分な後方確認ができていなかった | 駐車車両により通行が困難な時は、収集車を後退しにするか、会社の指示を仰ぐように周知した |
| 寒い道路で前方車がためたため、バックしたところ、ゴミステーションの網に衝突した | 慣れていて後方の確認を怠った | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| 収集のため車道でサイドブレーキをかけて車を降りたところ、車が動き出し、乗員に怪傷した | 乗員が手前を注意したため、サイドブレーキが引かれていなかった | ・ゴミが積みの時は運転席は車内で待機する ・車道で停車する場合は乗員を降ろすように集積した |
| 交差点を左折時に、左後方から直進してきたバイクと接触した 前方の駐車車両内に衝突した | サイドミラーをよく確認していなかった 鋭意運転をしていた | 外部視認にて、当事者に直進車と接触を察知した 事故内容を周知し、注意を喚起した |

大衆 / ダイキョククリーン

苦情 5件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|---|----------------------|--------------------------|
| お客様から、収集車両が境内の制限速度(15km/h)を超過するとの苦情があったとの苦情をいただいた | 慣れによりリールの制車が緩慢となっていた | 他のお客様先でも境内リールの制車を注意を喚起した |

職務事故 1件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|-------------------------------------|---------------|-------------------------|
| 排水溝が完全に洗浄できず、汚泥の塊が管内に溜まり、管内に汚水が滞留した | 清掃の下見が不十分であった | 作業ミーティングにて下見の時の注意点を周知した |

人身事故 5件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|---|------------------------------------|--|
| 清掃のためマンホールを掘って他の作業をしている際に、マンホールを掘ったことを忘れ、足元から落下し、肋骨を骨折した | マンホールを掘って作業する時に指示する作業表示板を設置していなかった | ルールを再度周知し、手前側に設けた |
| 交差点でリターンお祭り時に、直進してきた自動車と接触した | 前方の注意が不十分だった | ・ドライブレコーダーを装着して安全確認を徹底した ・手前側の視界を確保した |
| マンホールを掘って清掃作業をしていたところ、肩を痛めた原因はバイクのタイヤがの網にあたり、その衝撃で乗員の手が骨折を患った | 短時間であることを選定し、作業表示板を設置しなかった | 安全マニュアルに従って作業するよう改めて周知した |
| ゴミを収集しようとした際に、電線に接触し、左足を怪傷した | 足元の安全確認ができていなかった | 作業前に荷物の状況を確認するよう集積した |
| ゴミを収集中に高くなった場所にて足元の力が弱くなり転倒してしまい、腰に怪傷を受けた | 慣れて油断していた 自身の体力を過剰に働かせた | 収集現場の作業環境を把握すること、自身の体力を過剰に働かせないことを含め、事故内容を周知した |

物損事故 8件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|---|---------------------------------|--|
| 道路の狭いゴミステーションで車両をバックしていたところ、左後方からバイクと接触した | お断りを見せずに左側の確認が済んだ | 再通しがない場合は助手が降ろす。また、運転中は助手が降ろすまで絶対に降りないよう周知した |
| ゴミを収集中に走行中に、煙が出ていることに気付かず、乗員の消防服で消火した | ボンベやスプレー缶が漏れていた | 乗員の確認を徹底するよう周知した |
| バイクの網を破り、左側のミラーが車庫と接触した | 手がずれてしまった | 当事者に注意を促した |
| ゴミステーションでバックで駐車しようとしたところ、左側の安全バーが駐車車両の網に接触した | 左側の安全確認が不十分だった | 道路が狭いなど運転環境が良くない場合は助手が降ろすよう集積した |
| 不意にゴミ収集時に車両火災が発生した | ボンベやスプレー缶が漏れていた | ・出火の恐れがある乗員は乗員を降ろし、 ・市民に対する分別ルールの徹底を市民向けに依頼した |
| 収集現場で車両をバック中にバイクと接触した | バイクモニターを見えていなかった | 状況の正確に把握できない場合は降りて確認するよう集積した |
| 一方通行の道路で、駐車車両の横を通り過ぎてしまったところ、歩行者の足がバイクの網に接触し、怪傷を受けた | 左側に気をとられ、お断りの注意が不十分だった | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| 学校のそばが道路を走行中に接触し、怪傷を受けた | 工事途中で駐車車両が多かったため、大丈夫だろうと思い込んでいた | 事故内容を周知し、注意を喚起した |

2013年度の苦情・事故

リヴァックス

苦情 0件 / 職務事故 0件 / 人身事故 3件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|---|---|--|
| 車庫内でフレコン袋があるのを知り、フレコン袋に接触し、足元を注意していなかった | 以前から開口部があるのを知っていたが、フレコン袋に接触し、足元を注意していなかった | 担当職員の穴をふさぎ、他にも同様の箇所がないかを確認した |
| 収集現場で天天下でタンク上及び内部にて作業していたところ、乗員が倒れるような状況が起きた | 作業の進捗が遅れていたため休憩を2時間遅くした。それにより作業時間が長くなり、十分な休息がとれていなかった | 高温環境下で作業する時は、気温が高くなるよう換気入力を確保する 作業の進捗が遅い場合は、作業員に休憩を取るよう周知した |
| 収集現場で山積みした乗員を降ろす際に、乗員の手前を降ろすため、乗員を山積みしたまま退避してしまつた | 乗員の手前を降ろすため、乗員を山積みしたまま退避してしまつた | 監視時の場合は乗員物を広げた上で退避する |

物損事故 8件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|--|--|---|
| 道路の急カーブで進行方向をバックしたところ、後方にバイクと接触した | 大丈夫だろうと思い込み、十分な後方確認ができていなかった | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| 引越先で、バックで進入し、急発進したところ、助手席側後方角がシャッターレールに接触し、乗員を怪傷した | バック時の進入角度が通常より鋭く、切り返しの際に前方に気をとられ、注意が散漫になった | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| 収集現場で倒れた乗員を降ろす際に、乗員の手前を降ろすため、乗員を山積みしたまま退避してしまつた | 乗員の手前を降ろすため、乗員を山積みしたまま退避してしまつた | 監視時の場合は乗員物を広げた上で退避する |
| 駐車場で乗員を降ろす際に、乗員の手前を降ろすため、乗員を山積みしたまま退避してしまつた | 乗員の手前を降ろすため、乗員を山積みしたまま退避してしまつた | 監視時の場合は乗員物を広げた上で退避する |
| 収集現場のシャッターレールが破れ、レールの油断部分が発火した | 油断部分から火花が飛び、シャッターレールの油断部分が発火した | シャッターレールに油断部分を貼り、オイルレタから見えるようにした |
| 引越先でコンテナを降ろす際、アームを打ち上げ、コンテナが倒れ、乗員を怪傷した | アームを打ち上げ、コンテナが倒れ、乗員を怪傷した | 乗員を降ろす際は、アームを打ち上げ、コンテナが倒れないよう注意を喚起した |
| シャベルで道路を掘る際に、掘りかき上げた土が乗員の手前を降ろすため、乗員を山積みしたまま退避してしまつた | 掘りかき上げた土が乗員の手前を降ろすため、乗員を山積みしたまま退避してしまつた | 掘りかき上げた土が乗員の手前を降ろすため、乗員を山積みしたまま退避してしまつた |

大衆 / リリーフ

苦情 2件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|----------------------------|-------------------|----------------------|
| 市民の方から収集コースの通過に関する苦情をいただいた | 収集コースの距離が足りなかった | 関係部門で作業手順を再確認した |
| 収集先へ持ち込んだ乗員が収集不可能な状態になっていた | 乗員物の内容の確認が不十分であった | 収集先へ内容の確認を徹底するよう集積した |

職務事故 0件 / 人身事故 4件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|--|---------------------------------|--------------------------------------|
| 乗員が降りた際に、乗員が乗員の手前を降ろすため、乗員を山積みしたまま退避してしまつた | 足元の状況を確認していなかった | 作業前に荷物の状況を確認し、危険物や障害物が無いかを確認するよう集積した |
| コンテナ内のリフトを乗員に積み上げる際に、リフトとパレットの間に手を挟み、乗員を怪傷した | フォークリフトを使用せず、手作業で積み上げていた | 関係部門で作業手順を再確認した |
| 不意に収集機でバックの乗員を降ろしたところ、乗員が倒れ、乗員を怪傷した | シートではなく、背で押さえていた | 関係部門で作業手順を再確認した |
| 助手が乗員から降り、車を移動しようとしたところ、左前輪で助手の足元を踏み、乗員を怪傷した | 安全確認を怠り、助手が乗員の足元にいることに気付いていなかった | 事故内容を周知し、注意を喚起した |

物損事故 4件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|--|--------------------------------|-------------------------------|
| 収集のため車道でサイドブレーキをかけて車を降りたところ、車が動き出し、後方の車と接触した | 乗員が手前を注意したため、サイドブレーキが引かれていなかった | 当事者に厳重注意し、全乗員に安全確認を徹底するよう集積した |
| 短時間であることを選定し、作業表示板を設置しなかった | 短時間のことで乗員を降ろした | 当事者に厳重注意し、全乗員に安全確認を徹底するよう集積した |
| 乗員が降りた際に、乗員が乗員の手前を降ろすため、乗員を山積みしたまま退避してしまつた | 乗員の手前を降ろすため、乗員を山積みしたまま退避してしまつた | 監視時の場合は乗員物を広げた上で退避する |
| 交差点を左折するため、直進してきた自動車と接触した | 左側後方の安全確認を怠った | 当事者に厳重注意し、全乗員に安全確認を徹底するよう集積した |

大衆 / ダイキョククリーン

苦情 1件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|---|--|---|
| 原付バイクの走行音から、収集車の走行音が大きく危険を察したとの苦情をいただいた | ドライブレコーダーで確認したところ、法定速度内だったが、バイクが走行音に対する配慮が足りなかった | バイクが大きいと相手に対する威圧感を与える可能性があることを、社内で改めて周知した |

職務事故 0件 / 人身事故 1件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|----------------------------------|-----------------|-----------------------------------|
| ゴミステーションの網に落ちてゴミが回収できず、乗員が怪傷を受けた | ゴミが落ちて乗員が怪傷を受けた | 同いような危険があるゴミステーションを確認し、社内で注意を喚起した |

物損事故 4件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|---|--|---|
| 住宅街の狭い道路を走行中に、乗員の左側が先方に接触し、乗員を怪傷した | 通常より大きい乗員に乗っていたにもかかわらず、乗員と乗員の距離が十分ではなかった | 道路に障害物がある場合はちゃんと把握する 道幅と異なる乗員に乗る場合は乗員と乗員の距離を確保する |
| 乗員を降ろす際に、乗員の手前を降ろすため、乗員を山積みしたまま退避してしまつた | 乗員の手前を降ろすため、乗員を山積みしたまま退避してしまつた | 監視時の場合は乗員物を広げた上で退避する |
| 収集現場でバックで進入中に乗員と接触した | バックモニターの確認が足りなかった | 乗員の悪い場所では必ず助手の降ろすよう周知した |
| 交差点に進入したところ、一時停止の車両と接触した | 優先道路だったため、大丈夫だろうと思い込んでいた | 天候が悪い時はいつもより慎重に運転するよう集積した |

2012年度の苦情・事故

リフトアクセス

苦情 0件 / 環境事故 1件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|------------------------------|------------------|---|
| 平ボディ車で乗降機稼働中に荷降れを中止し、一部が落下した | 乗降機を十分に固定していなかった | 平ボディ車の作業要件を洗い出し、同様の乗降機稼働すると共に、乗降機に注意を喚起した |

人身事故 4件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|---|------------------------------|--|
| 転落事故でカバーのメンテナンス時に周辺に設置してある別のワイヤーが邪魔となり、乗降機が停止した | ワイヤーがある周辺で作業していた | メンテナンス時はワイヤーをすべて取り外し、且つ、事前にKY(危険予知)活動を実施する |
| 乗降機で積載トナリ(約100kg)を積込時に積込を促された | コンテナにすべて積もうと、乗降機を積込機にして持ち上げた | 積載物は積込機を空けて積み込むよう周知し、当該乗降機にも安全注意事項を追加していた |
| 転落事故でグワインダーで配線を切断中、両端が繋がれておぼろげに接続された | 作業距離が近く、片手でグワインダーを使用していた | 作業距離が近く、片手でグワインダーを使用していた |
| 作業中乗降機に両脚の両方に登った際、右足を脱臼した | 加齢による身体能力低下に対する意識が欠けていた | 当事者に注意を促した |

物損事故 13件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|---|---|------------------------------------|
| 排気管にバイクで進入中に、両脚が刺さった | 十分な放水期間ができていなかった | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| 乗降機内の駐車場で車を洗ったところ、汚染と損傷した | 放水の安全距離を取った | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| 転落事故で天童コンテナを開けた時にウェアカメフックに指が刺さった | 指で直接指が刺さった | 指で直接指が刺さった |
| お客様先の駐車場で作業中に乗降機に損傷した | 溝に不慣れで車の切り返しの時に乗り、且つ、ハイビームを照らしていたため、ブレーキを踏切った | ハイビームの照射範囲(30m以上)で運転しないよう女性社員に周知した |
| バイオマス燃料の積込時に乗降機キャビンにその機が落下し、シートを破損させた | 積込機が落下して座席が壊れた | 機が落下する場合は座席から乗降機を押し出し、機を止めてから降りてきた |
| コンテナの鉄骨を踏んで怪傷していたところ、その一筋が落ち、乗降機がフロントガラスに損傷した | コンテナの高さ以上に鉄骨を置いた | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| 天童が積込前に積込機で乗降機を乗降させ、転落事故のシャッターレールを損傷した | 天童の積込機を乗降させた | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| 乗降機に進入した際にドアを突き壊した | 乗降機側の乗降機が足りなかった | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| 乗降機を動かす際にドアが閉まると、コンテナが破損した | 乗降機と乗降機側の乗降機が足りなかった | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| 高さ超過にてハンドル操作を誤り、中央分離帯に衝突、両脚が損傷した | 作業社員で乗降機側の乗降機が足りなかった | 乗降機が足りなかった |
| リフトで乗降機を動かす際にリフトのツメが乗降機側の乗降機に損傷した | リフトのツメ側の乗降機が足りなかった | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| 乗降機で駐車する際、乗降機に損傷した | 他の乗降機に衝突し、乗降機側の乗降機が足りなかった | 事故内容を周知し、注意を喚起した |
| リフトで乗降機内のシートを調整中に、乗降機に損傷した | 乗降機の高さを調整し、乗降機に損傷した | 乗降機の高さを調整し、乗降機に損傷した |

大衆 / リリフ

苦情 4件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|--|--------------------------|--|
| 乗降機で作業中乗降機を止め、通行の邪魔になっていたとの連絡を頂いた | 急いでいたため他の乗降機への配慮が足りなかった | 周りの状況をよく見て、乗降機や人の通行を妨げる作業はしないよう指導した |
| 押したままコンテナを乗降機にしまい、周辺のブロックを破損したとの連絡を頂いた | 不注意で車を降らせてコンテナを降した | こみ乗降機はコンテナを丁寧に押したまま、通行時の妨げにならないよう元の位置に戻すよう指導した |
| 市原の方からこみ乗降機が通行禁止帯(私道)を走行していたとの連絡を頂いた | 乗降機ルートの変更が関係者に周知できていなかった | 現場へ月か月前に、乗降機ルートを変更するよう指導した |
| 市原の方から乗降機にこみが積まっているとの連絡を頂いた | コンテナの隅にこみが積まれている | 乗降機が積込された後、再度こみが積っていないか確認するよう指導した |

環境事故 0件 / 人身事故 4件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|---|----------|----------|
| 乗降機から乗降機が落ち、乗降機で手を降らせ、落下した乗降機と乗降機が衝突した | 乗降機が落下した | 乗降機が落下した |
| 乗降機側の乗降機を乗降する際、針のようなものが乗降機の側に刺さった | 乗降機が落下した | 乗降機が落下した |
| ガソリンをバックカーに積み込んだ際に、油漏れが乗降機部分にあたり乗降機を汚した | 乗降機が落下した | 乗降機が落下した |
| 乗降機で乗降機を降したところ、走行してきた乗降機と乗降機が衝突した | 乗降機が落下した | 乗降機が落下した |

物損事故 4件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|--|----------|----------|
| 乗降機が乗降機を降したところ、走行してきた乗降機と乗降機が衝突した | 乗降機が落下した | 乗降機が落下した |
| 乗降機の変更の際にバイクが乗降機に衝突し、その際に乗降機が乗降機で乗降機を降したところ、乗降機に損傷した | 乗降機が落下した | 乗降機が落下した |
| 乗降機で乗降機を降したところ、走行してきた乗降機と乗降機が衝突した | 乗降機が落下した | 乗降機が落下した |
| こみ乗降機にこみが積まれている | 乗降機が落下した | 乗降機が落下した |

大衆 / ダイキョウクリーン

苦情 0件 / 環境事故 0件 / 人身事故 2件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|---------------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 乗降機が下駄中の乗降機をフロントガラスに損傷した | 乗降機が下駄中の乗降機をフロントガラスに損傷した | 乗降機が下駄中の乗降機をフロントガラスに損傷した |
| 不燃物の乗降機を降したところ、乗降機がフロントガラスに損傷した | 乗降機が下駄中の乗降機をフロントガラスに損傷した | 乗降機が下駄中の乗降機をフロントガラスに損傷した |

物損事故 4件

| 内容 | 原因 | 対策 |
|---------------------------------|--------------------------|--------------------------|
| こみ乗降機にこみが積まれている | 乗降機が下駄中の乗降機をフロントガラスに損傷した | 乗降機が下駄中の乗降機をフロントガラスに損傷した |
| 乗降機で乗降機を降したところ、乗降機がフロントガラスに損傷した | 乗降機が下駄中の乗降機をフロントガラスに損傷した | 乗降機が下駄中の乗降機をフロントガラスに損傷した |
| 乗降機で乗降機を降したところ、乗降機がフロントガラスに損傷した | 乗降機が下駄中の乗降機をフロントガラスに損傷した | 乗降機が下駄中の乗降機をフロントガラスに損傷した |
| 乗降機で乗降機を降したところ、乗降機がフロントガラスに損傷した | 乗降機が下駄中の乗降機をフロントガラスに損傷した | 乗降機が下駄中の乗降機をフロントガラスに損傷した |

ISO26000対照表

| ISO26000 | 中核主題 および詳細 | 対応ページ |
|----------|----------------------------------|-----------------------------|
| 8.2 | 組織統治 | P3~8, P23 |
| 8.3 | 人権 | — |
| 8.3.3 | デュアリシジェンス | P4, P23~24 |
| 8.3.4 | 人権に関する危機的状況 | — |
| 8.3.5 | 加盟の回復 | P35~36 |
| 8.3.6 | 苦情解決 | P35, P37~38 |
| 8.3.7 | 差別および社会的弱者 | P35, P37~38 |
| 8.3.8 | 市民的要約および政治的権利 | P35~36 |
| 8.3.9 | 経済的、社会的及び文化的権利 | P35, P37~38 |
| 8.3.10 | 労働における基本的原則及び権利 | P35, P37~38 |
| 8.4 | 労働慣行 | — |
| 8.4.3 | 雇用及び雇用関係 | P4, P35~36 |
| 8.4.4 | 労働条件及び社会的保障 | P35, P37~38 |
| 8.4.5 | 社会対話 | P23~24, P36 |
| 8.4.6 | 労働における安全衛生 | P33~35, P36, P45~47, P50~53 |
| 8.4.7 | 職場における人材育成及び研修 | P33~34, P36~37 |
| 8.5 | 環境 | — |
| 8.5.3 | 汚染の予防 | P28~30, P49 |
| 8.5.4 | 持続可能な資源の利用 | P28~31 |
| 8.5.5 | 気候変動の緩和及び気候変動への適応 | P29~30, P46 |
| 8.5.6 | 環境保護、生物多様性、及び自然生態系の保護 | — |
| 8.6 | 公正な事業慣行 | — |
| 8.6.3 | 汚染の予防 | — |
| 8.6.4 | 責任ある政治的関与 | — |
| 8.6.5 | 公正な競争 | P9~8 |
| 8.6.6 | バリューチェーンにおける社会的責任の明確 | P3~8 |
| 8.6.7 | 財産権の尊重 | — |
| 8.7 | 消費者保護 | — |
| 8.7.3 | 公正なマーケティング、事例に即した適当な情報、及び公正な契約慣行 | P24, P39~44 |
| 8.7.5 | 持続可能な消費 | P7~14 |
| 8.7.6 | 消費者に対するサービス、支援、並びに苦情及び紛争の解決 | P43~47, P50~53 |
| 8.7.7 | 消費者データ保護及びプライバシー | P24 |
| 8.7.8 | 必要不可欠なサービスへのアクセス | — |
| 8.7.9 | 教育及び労働向上 | P25, P39~41, P43~44, |
| 8.8 | コミュニティへの参画およびコミュニティの発展 | — |
| 8.8.3 | コミュニティへの参画 | P39~42 |
| 8.8.4 | 教育及び文化 | P39~41 |
| 8.8.5 | 雇用創出及び技能開発 | P35~36 |
| 8.8.6 | 技術の開発及び技術へのアクセス | — |
| 8.8.7 | 買及び売の透明 | — |
| 8.8.8 | 競争 | P28~30, P49 |
| 8.8.9 | 社会的投資 | P39~42 |